

改正
新刑法大要

中央大學校友
系數昌興著

258
68

036046-000-0

特14-227

新刑法大要

系數 昌興/著

M40

BBP-0674



正誤

第十一條ノ六行目ノ舊刑法ヲ舊刑法ト改ム
 第十五條ノ一行目ノ二十圓以下ハ二十圓以上ノ誤ナリ又々二行
 目ノ二十圓以上ハ二十圓以下ノ誤ナリ
 第三十三條ノ二行目ノ期間内ニトアルハ期間内ハノ誤ナリ
 二十八丁ノ第三十三條ハ第三十五條ノ誤ナリ
 第五十一條ノ三行中禁錮ノ執行以下ニ左ノ二行ヲ抑入ス
 ○ ス可キトキハ罰金科料及ヒ沒収ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セズ
 有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行○
 第五十二條ノ四行目ノ大赦ハ大赦ノ誤ナリ
 第二百五十三條ノ三行目ノ公務員トアルハ倉庫營業者等ノ誤ナ
 リ

現行刑法

計リタル

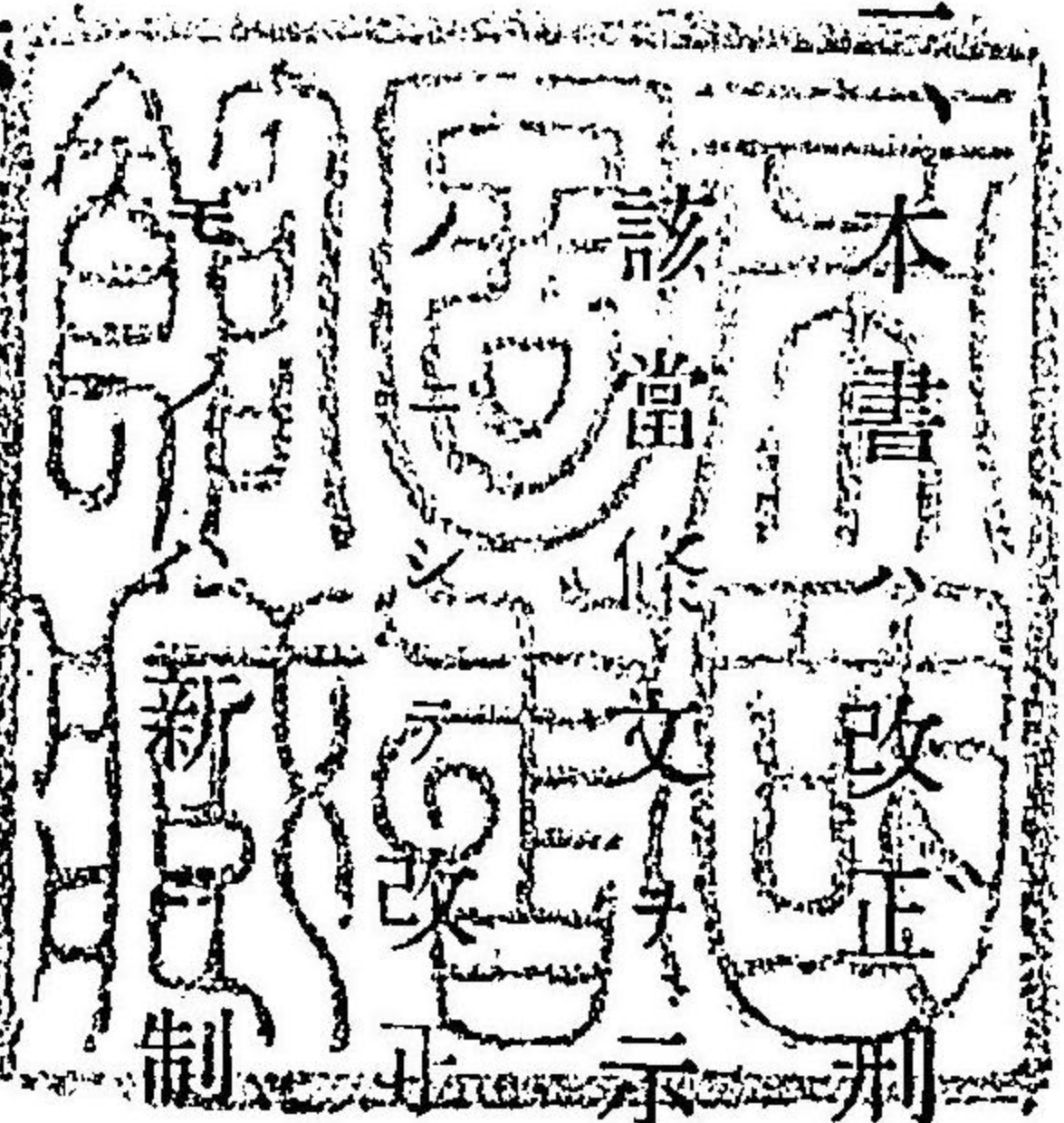
當條文ナキ

ノ個處ニハ

者ノ議論ア



例言



法ノ條文ヲ舉ケ現行刑法

シテ對照ノ便ヲ計リタル

刑法ノ條下ニ該當條文ナキ

定シタルモノナリ

一 本書ハ條文中ノ熟語又ハ難解ノ個處ニハ

通説ヲ以テ意義ヲ示シ又タ學者ノ議論ア

ル点ニハ數説ヲ舉ケタリ

明治
40 7 6
丙寅

特14
227

改正新刑法大要目次

第一編 總則

第一章	法例
第二章	刑
第三章	期間計算
第四章	刑ノ執行猶豫
第五章	假出獄
第六章	時効
第七章	犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免
第八章	未遂罪
第九章	併合罪
第十章	累犯
第十一章	共犯
第十二章	酌量減輕

〇二

三、本書ハ條文中難解ノ熟語又ハ學說ナキモ
ノニハ只々現行刑法ノ該當條文ノミヲ示
セリ

明治四十年六月

編者 識

第十三章 加減例

第二編 罪

- 第一章 皇室ニ對スル罪
- 第二章 内亂ニ關スル罪
- 第三章 外患ニ關スル罪
- 第四章 國交ニ關スル罪
- 第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪
- 第六章 逃走ノ罪
- 第七章 犯人藏匿及ヒ証憑湮滅ノ罪
- 第八章 騷擾ノ罪
- 第九章 放火及ヒ失火ノ罪
- 第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪
- 第十一章 往來ヲ妨害スル罪
- 第十二章 住居ヲ侵スル罪
- 第十三章 秘密ヲ侵スル罪

- 第十四章 阿片煙ニ關スル罪
- 第十五章 飲料水ニ關スル罪
- 第十六章 通貨偽造ノ罪
- 第十七章 文書偽造ノ罪
- 第十八章 有價証券偽造ノ罪
- 第十九章 印章偽造ノ罪
- 第二十章 偽証ノ罪
- 第二十一章 誣告ノ罪
- 第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪
- 第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪
- 第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪
- 第二十五章 瀆職ノ罪
- 第二十六章 殺人ノ罪
- 第二十七章 傷害ノ罪
- 第二十八章 過失傷害ノ罪

第二十九章	墮胎ノ罪
第三十章	遺棄ノ罪
第三十一章	逮捕及ヒ監禁ノ罪
第三十二章	脅迫ノ罪
第三十三章	略取及ヒ誘拐ノ罪
第三十四章	名譽ニ對スル罪
第三十五章	信用及ヒ業務ニ對スル罪
第三十六章	竊盜及ヒ強盜ノ罪
第三十七章	詐欺及ヒ恐喝ノ罪
第三十八章	横領ノ罪
第三十九章	贓物ニ關スル罪
第四十章	毀棄及ヒ隱匿ノ罪

改正刑法大要

刑法

刑法トハ犯罪ト刑罰トヲ定メタル國法ヲ謂フ

第一編 總則

第一章 法例

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦々同シ

○帝國ノ範圍ハ日本帝國ノ領地及ヒ領海ナリ

○領海トハ國際公法ノ原則ハ干潮ノ片ノ海岸ヨリ三哩ナルヲ通

説トス

二

- 罪トハ國家カ刑罰ノ制裁ヲ附シタル有責違法ノ行爲ナリ
- 本條ハ我カ刑法ハ我カ領土内ニ完全ニ行ハル、トノ原則ヲ示シ船舶ハ領土ノ延張ナリトノ學說ヲ認メタルモノナリ
- 刑法ノ目的ハ國ノ安寧秩序ヲ維持スルニアリ若シ安寧秩序ニ害アラシカ内外人ノ別ナク之ヲ罰セサレハ刑法ノ目的ヲ貫徹スルヲ能ハサルナリ
- 例外
- 天皇又ハ外國主權者及ヒ其從者外國使臣ニハ適用ナキモノト知ルヘシ
- 天皇ハ萬能ニシテ神聖侵スヘカラス
- 外國主權者ハ國際公法上ノ原則ニ依リ我カ主權者ト對等ノ權

ヲ有スルヲ以テ我カ刑法カ外國主權者ニモ及ブトセハ外國主權ヲ害ススルトトナルヘシ

- 從者ニ及ハサルハ只タ外國主權ヲ尊敬シ其威嚴ヲ保タシムルニアリ

- 使臣ニ及ハサルハ使臣ノ職務ヲ全ウセシムル國際法上ノ理由ニ出ツ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル

罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

- 一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪
- 二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪
- 三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪
- 四 第四百十八條ノ罪及ヒ其未遂罪

三

五 第一百五十四條 第一百五十五條 第一百五十七條 及ヒ 第一百五十八條ノ罪

六 第六十二條 及ヒ 第六十三條ノ罪

七 第六十四條 乃至 第六十六條ノ罪 及ヒ 第六十四條第二項 第六十五條第二項 第六十六條第二項ノ未遂罪

○ 刑法ノ目的ハ我カ國ノ安寧秩序ヲ維持スルニアルヲ以テ若シ我カ國ノ安寧秩序ニ害アラシキニシテ外國ナルニ拘ハラズ亦外人ノ内外人タルヲ問ハス我カ刑法ヲ適用シテ我カ國ノ法權ヲ維持スルニアリ

○ 本條ハ我カ刑法カ或ル制限ノ下ニ外國及ヒ外國人ニモ及フヲ示セルモノナリ

第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル

帝國臣民ニ之ヲ適用ス

一 第八條 第九條 第一項ノ罪 第八條 第九條 第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪 及ヒ 此等ノ罪ノ未遂

二 第十九條ノ罪

三 第五十九條 乃至 第六十一條ノ罪

四 第六十七條ノ罪 及ヒ 同條第二項ノ未遂罪

五 第七十六條 乃至 第七十九條 第八十一條 及ヒ 第一百八十四條ノ罪

六 第九十九條 第二百條ノ罪 及ヒ 其未遂罪

七 第二百四條 及ヒ 第二百五條ノ罪

八 第二百四條 乃至 第二百十六條ノ罪

九第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

十第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪

十一第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪

十二第二百三十條ノ罪

十三第二百三十五條第二百三十六條第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪

十四第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪

十五第二百五十三條ノ罪

十六第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦タ同シ

○本條ハ我カ刑法カ外國ニ於テ帝國臣民カ犯シタル罪及ヒ外國ニ於テ帝國臣民ニ對シテ外國人カ犯シタル罪ニ適用スルヲ規定セルモノナリ

○帝國臣民ト外國人トノ區別

○帝國臣民トハ我カ帝國ニ國籍ヲ有スルモノヲ云ヒ外國人トハ日本帝國ノ國籍ナキモノヲ云フ(國籍法參照)

第四條

本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

- 一 第一百一條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 二 第二百五十六條ノ罪
- 三 第九十三條第九十五條第二項第九十七條ノ罪及ヒ第九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ

致シタル罪

八

○公務員トハ第七條第一項ニ意義ヲ示セリ官吏公吏法令ニ依リ公務ニ従事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂フ

第五條

外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

○外國裁判ノ効力ハ我カ日本帝國ニ及バス日本ニハ日本ノ法律アリ日本臣民ハ日本帝國ノ法律ニ絶對服從ノ義務ヲ有ス若シ同一行爲ニ付キ我カ法律ニ違犯シタルキハ之ヲ處罰スルコトヲ得ルハ法理上當然ナリ

○本條ハ裁判官ニ裁量ノ自由ヲ與ヘタルモノナリ

○裁量トハ法定ノ範圍内ニ於テ裁判上ノ選擇ヲ爲スヲ云フ

第六條

犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕

キモノヲ適用ス

○(犯罪後ノ法律)犯罪ハ行爲ナリ行爲アルト同時ニ成立スルモノナリ本條ハ行爲成立當時ノ法律カ改正トナリテ其改正法律ニ於テ刑ノ變更アリタル場合ナリ

○本條ハ舊刑法第三條新舊比照法ニ該當スルモノナリ

第七條

本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏公吏法令ニ依リ

公務ニ従事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

○官吏トハ任命ナル公法上ノ形式ニ依リ公務ニ従事スル者ヲ云

ヒ

○公吏トハ地方自治團體ニ屬スル公務ヲ行フ吏員ヲ云ヒ

○議員委員トハ任命又ハ選舉ニ依リ公務ニ從事スルモノヲ云フ

第八條

本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦タ之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルキハ此限ニ在ラス

○舊刑法第五條ニ該當ス

○刑法ハ刑罰法中ノ原則法ナルヲ以テ他ノ刑罰法令ニ刑罰ヲ定メタルキニモ特別ノ例外規定ナキ以上ハ此刑法ノ總則ヲ適用スルモノナリ

第二章 刑

○刑トハ國家カ犯罪ニ對スル法律上ノ效果トシテ犯人ニ科スル法益ノ剝奪ナリ

第九條

死刑懲役禁錮罰金拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ

附加刑トス

○舊刑法第六條乃至第十一條ニ該當ス

○死刑ハ生命刑ナリ犯人ノ生命ヲ絶ツモノナリ

○懲役禁錮拘留ハ自由刑ナリ犯人ノ自由ヲ剝奪スルモノナリ

○懲役禁錮ニハ有期無期ノ二種アリ

○罰金科料ハ財産刑ナリ犯人ヨリ財産ヲ剝奪スルモノナリ

○監視ハ廢セリ

○監視ハ犯人ノ將來ヲ檢束スル手段ナリトノ思想ハ誤謬ナリ却テ監視アルガ爲メ累犯者ヲ増加セシムルノ原因トナルモノナリ監視ハ犯人カ社會ニ於ケル信用ヲ傷害シ自暴自棄ノ念慮ヲ起サシメ再ヒ犯罪ヲナスノ止ムヲ得サルニ至ラシムルモノナ

○剝奪公權停止公權ヲ削除シタルハ他ノ特別法ニ規定スヘキモノナルヲ以テナリ

第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム
○本條ハ刑罰ノ輕重ノ標準ヲ定メタルモノナリ

第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

○絞首トハ犯人ノ生命ヲ絶ツノ方法ナリ

○拘置ハ刑罰ニアラス

○舊刑法ヲ第十二條乃至第十六條ニ該當ス

第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス

○舊刑法第十七條ニ該當ス

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス

○舊刑法第二十條ニ該當ス

第十四條

有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

○舊刑法第七十條第二項第七十一條ニ該當ス

第十五條

罰金ハ貳拾圓以下トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ貳拾圓以上ニ降スコトヲ得

○舊刑法第二十六條及ヒ第七十一條ニ該當ス

○罰金ハ主刑ノミナリ

○罰金ハ刑罰ニシテ國庫ニ對スル債務ニアラス故ニ數人ノ共犯ニ之ヲ科スル片ハ各自ヨリ金額ヲ徵収スルモノニシテ之ヲ連

帶又ハ分擔セシムヘキモノニアラス又タ犯人之ヲ完納セシムテ死亡スルモ相續人ニ之ヲ負擔セシムヘキモノニアラス

第十六條

拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘置ス

○舊刑法第二十八條ニ該當ス

第十七條

科料ハ拾錢以上貳拾圓未滿トス

○舊刑法第二十九條ニ該當ス

第十八條

罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一年以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超

ユルコトヲ得ズ
 罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又
 ハ科料ヲ完納スルニト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期
 間ヲ定メ之ヲ言渡スヘシ
 罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確
 定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ
 爲スコトヲ得ス
 罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキ
 ハ罰金又ハ科料ノ金額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金
 額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス
 留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ
 以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得
 ス

○舊刑法第二十七條第三十條ニ該當ス

○本條ハ猶豫期間内ハ本人ノ承諾ニ依リ留置處分ヲ執行スルコ
 トヲ定メタルモノナリ

○留置處分ハ金刑執行ノ方法ニシテ他ノ自由刑トハ全ク其ノ性
 質ヲ異ニスルモノナリ

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 犯罪行爲ヲ組成シタル物
 - 二 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物
 - 三 犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物
- 沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

○舊刑法第四十三條及ヒ第四十四條ニ該當ス

○犯人以外ノ者ノ所有ナルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス何トナレハ犯人以外ノ者ノ所有ナル場合ニモ沒收スルトセハ刑罰ノ性質ニ抵觸スルモノナリ

○附加刑ハ沒收ノミニシテ沒收ハ單一ナル附加刑ナリ

○法禁物ハ本條ノ適用ナシ

○法禁物トハ法律上何人モ所持所有スルコトヲ禁セラレタルモノナリ之ヲ官沒スルハ刑罰ノ性質ヲ有スルニアラスシテ行政處分ナリ

○犯罪行為ヨリ直接ニ生シ又ハ直接ノ結果トシテ領得シタル場合ニ適用スルモノニシテ間接ノ場合ニハ適用ナキモノナリ

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定

アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

○沒收ノ例外ヲ定メタルモノナリ

第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

○舊刑法第五十一條ニ該當ス

○一ノ恩典ニ外ナラス

○長日月ノ未決拘留ヲ受ケ居ルモノ又ハ拘留日數ヨリ宣告ノ刑カ僅少ナル場合等ニ行ハル、ナラン

第三章 期間計算

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

○ 舊刑法第四十九條第一項ニ該當ス

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

○ 舊刑法第五十條第五十一條第五十二條及ヒ第四十條ニ該當ス

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ

計算ス時効期間ノ初日亦タ同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

○ 舊刑法第四十九條第二項ニ該當ス

第四章 刑ノ執行猶豫

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ

言渡ヲ受クタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一

年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行

ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

○ 刑事政策上ノ理由ニ基クモノナリ

○ 一ノ恩典ナリ

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ

言渡ヲ取消ス可シ

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ

タルトキ

二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑

ニ處セラレタルトキ

三前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

○根據ハ本條第一號第二號及ヒ第三號ノ如キモノハ最早恩典ヲ與フルノ必要ナキモノナリ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其効力ヲ失フ

○本條ハ言渡サレタル刑罰ヲ消滅セシムルモノニシテ罪ヲ消滅セシムルモノニアラサルナリ

第五章 假出獄

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アル

トキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

○舊刑法第五十三條ニ該當ス

○假出獄ハ行政處分ナルモ刑ノ内容ニ其影響ヲ及ホストノ理由ニ依リ本法ハ之ヲ存セルモノナリ

第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

一假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處

セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ
四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ
假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

○ 舊刑法第五十六條ニ該當ス

○ 取消ノ場合ヲ定メタルモノナリ

第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得
罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦々同シ

○ 本條ハ前條ト相俟テ假出獄ノ制度ヲ完全ニ發揮シタルモノナリ

第六章 時 效

○ 時效トハ時ノ經過ニ因リ刑ヲ消滅セシムルヲ謂フ

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時效ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

○ 時效ハ刑罰權ノ實體ヲ消滅セシムルモノナリ

○ 時效ハ刑ヲ減スルニ止マリ罪ヲ減スヘキモノニアラサルナリ

○ 時效ヲ設ケタル理由

○ 刑事法ニ就テハ訴追又ハ執行上種々ナル積極的及ヒ消極的ノ反對事情ヲ生スルカ故ナリ

○ 積極的の反對事情

証人又ハ証品據ノ滅滅等ナリ

○ 消極的の反對事情

被害者ノ感情和キ世人犯罪事實ヲ遺忘シ犯人タルヲ知ラス
シテ生スヘキ平和關係増加シ餘リ古キ犯罪ニ對スル所罰ニ
就テハ世人寧ロ犯人ヲ憫ミ刑ヲ惡ム等ナリ

○舊刑法第五十八條第六十條第一項ニ該當ス

第三十二條 時效ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執

行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

一 死刑ハ三十年

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年三年以上ハ
十年三年未滿ハ五年

四 罰金ハ三年

五 拘留料料及ヒ没収ハ一年

○舊刑法第五十九條第六十條第三項ニ該當ス

第三十三條 時效ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止

シタル期間内ニ進行セス

○刑ノ執行猶豫ノ制度ヲ完全ナラシメタルモノナリ

第三十四條 時效ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因

リ之ヲ中斷ス

罰金科料及ヒ没収ノ時效ハ執行行為ヲ爲シタルニ因リ
之ヲ中斷ス

○時效中斷トハ時效完成ノ障害ヲ爲ス事實ニシテ即チ或ル事由
發生シタルルキハ其以前ニ經過シタル時效期間ノ利益ヲ消滅セ
シムル事實ヲ謂フ從テ時效中斷アリタルルキハ時效ハ之ヲ中斷
シタル事由ノ終了シタルルキヨリ更ニ新ニ進行ヲ始ムヘキモノ

○逮捕トハ刑事訴訟法ノ手續ニ依ル捕縛ヲ云フ

○舊刑法第六十一條及ヒ第六十二條ニ該當ス

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

○犯罪ノ不成立トハ或原因ヲ具フルルハ犯罪行為ト同一ノ内容實質ヲ有スルモ罪トナラサルモノヲ謂フ

第三十三條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行為ハ之ヲ罰セス

○法令ノ明文又ハ當事者ノ法律上ノ地位ニ基キ當然爲スコトヲ得又ハ爲サ、ルヘカラサル行為アリ之ヲ稱シテ法令ニ因ル權利義務ノ實行ト謂フ斯ル行為ハ法益ヲ害スルモ違法ニアラス從テ犯罪ト同一ノ内容ヲ有スルモ犯罪トナルコトナシ例ヘハ官吏

ノ職務行為又ハ懲戒行為監督行為及ヒ逮捕權ノ行使等ノ如キ之ニ屬ス

○法益トハ法ヲ以テ保護スル利益ヲ謂フ

○正當業務ニ因ル行為トハ法令又ハ慣習ニ因ル業務ヲ謂フ例ヘハ外科醫ノ施術角力等ノ如キハ之ニ屬ス

○舊刑法第七十六條ニ該當ス

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他ハノ權利ヲ

防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行為ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超エタル行為ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

○正當防衛ハ各人ノ權利ニ屬ス故ニ侵害者ノ法益ヲ害スルモ之

ヲ以テ違法トナスコト能ハス從テ之カ爲メニ犯罪ヲ成立セシムルコトナシ

○不正トハ違法ナルコトヲ意味ス

○權利トハ法律カ吾人ノ利益ヲ保護スル爲メ與ヘタル意思ノ力ナリ

○防衛ノ程度ハ侵害ヲ除去スル爲メニ已ムコトヲ得サル範圍ヲ云フ此ノ範圍ヲ脱セハ犯罪行爲トナルモノナリ

○舊刑法第三百十四條及ヒ第三百十五條第三百十六條ニ該當ス

第三十七條

自己又ハ他人ノ生命身体自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其程度ヲ超

エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ニ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

○本條ハ急迫危難(緊急状態ナリ)

○急迫危難ハ二個ノ法益ガ互ニ相衝突シ其一ヲ全セント欲セハ他ヲ害セサルヘカラサル状態ニ外ナラス

○正當防衛トノ別

○正當防衛ハ不法ノ侵害ニ對シテ正當ノ權利ヲ保護シ急迫危難ハ正當ノ權利ヲ害スルニ因リテ正當ノ權利ヲ保護スルモノナリ

○急迫危難ハ二個ノ權利カ衝突シタル場合ナルヲ以テ他ニ危難

ヲ避クルノ途ナカリシト及ヒ危難ヲ避クル爲メノ行爲ヨリ生シタル害カ其避クントスル害ノ程度ヲ超越セサル場合ナラザルヘガラス之ヲ逸出セハ犯罪トナル

○緊急状態其ノモノカ違法阻却ノ原因トナルモノナリ舊刑法第七十五條第一項ニ該當ス

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス
法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

○罪ヲ犯ス意ナキ行爲トハ無意ノ動靜ヲ謂フニアラス無意ノ動

靜ノ犯罪タラサルハ法理上ノ原則ナリ本條第一項ハ故意ナキノ行爲ハ罪トナラサルヲ規定シタルモノナリ

○犯罪ノ故意トハ行爲ヲ不法タラシムヘキ事實ノ認識ヲ謂フ

○故意ナキノ行爲ハ犯罪トナラサルヲ原則トシ之ヲ罰スルニハ特別ノ規定アルヲ要スルモノナリ過失罪ヲ規定シタル如キ是レナリ

○第二項ハ事實ノ錯誤ハ犯罪ノ成立セサルヲ規定セルモノナリ

○錯誤トハ觀念ト對象トノ齟齬ナリ尙ホ平言スレハ考ト考タル目的ト違ヒタル場合ヲ謂フ

舊刑法第七十七條ニ該當ス

第三十九條 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

○心神喪失者トハ知覺精神ノ喪失シタルモノナリ

舊刑法第七十八條ニ該當ス

第四十條 瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

○瘖啞者ハ人類ノ重要ナル機關ヲ缺クカ爲メ其ノ智能ヲ發達ス

ルヲ能ハスシテ辨識力ヲ有セサルモノアレハナリ

○現今不具者ヲ教育スルノ途開ケタルニ付其ノ智能ノ發達シタ

ルヤ否ヤヲ鑑別シテ責任ノ有無ヲ決スヘキモノナリ

○舊刑法第八十二條ニ該當ス

第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

○舊刑法ノ主義

十二歳未滿ハ無責任

十二歳以上十六歳未滿ハ辨別ノ有無ヲ調査シ責任ノ有無ヲ

決ス有ノキモ減輕

十六歳以上二十歳ハ減輕

二十歳以上ハ全責任

○改正刑法ノ主義

十四歳以下ハ無責任

十四歳以上ハ全責任

○舊刑法第七十九條乃至第八十一條及ヒ第八十三條ニ該當ス

○十四歳未滿ハ智能ノ發達セサルモノト斷定セルモノナリ

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者

ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服

シタル者亦同シ

○自首トハ罪ヲ犯シ事發覺前ニ自ラ進テ當該官吏ニ罪狀ヲ申告スルヲ謂フ

○未タ發覺セサル犯罪トハ搜查權ヲ有スル官署又ハ官吏犯罪ノ事實若クハ犯人ノ誰タルヲ知ラサル間ヲ謂フ

○申告罪ニ於ケル被害者ノ告訴ハ處罰條件ナルヲ以テ告訴權者ニ首服スレハ官ニ自首シタルモノト同一ノ効力アリ

○一般犯罪ニ適用スルモノナリ

○舊刑法第八十五條第八十六條及ヒ八十七條ニ該當ス

第八章 未遂罪

○未遂トハ犯罪事實ノ觀念ヲ以テ之ヲ完成スルノ恐レアル行爲ヲ謂フ

第四十三條

犯罪ノ實行ニ着手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ思義ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

○犯罪ノ實行トハ刑法ノ明文ニ於テ各犯罪ノ特別成立要素タル行爲ヲ謂フ

○着手行爲トハ實行ヲ組成スル各舉動及ヒ實行ニ近接密着シタル各舉動ヲ謂フ

○故ニ實行終結スルト共ニ着手行爲ノ關係終結ス

○中止犯ハ未遂犯ノ一種ナリ

○中止トハ犯人カ任意ニ既遂ニ至ラシメサルヲ云フ

○中止ハ任意ナルヲ要スルヲ以テ自發ノ動機ニ因ルヲ要シ他動的ノ原因ニ因ルモノハ中止ニアラス

○中止ノ決意ハ如何ナル動機ニ因ルモ可ナリ

○舊刑法第百十一條第百十二條ニ該當ス

第四十四條 未遂犯ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ト

○一般犯罪ノ未遂ヲ罰スルニアラス

○舊刑法第百十三條ニ該當ス

第九章 併合罪

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪

ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定

前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

○本條ハ數罪俱發ノ場合ニシテ舊刑法第百條乃至第百三條ニ該當ス

○併合罪トハ確定判決ヲ經サル多數ノ犯罪又ハ確定判決ヲ經タ

ル犯罪ト其前ニ犯シタル確定判決ヲ經サル罪トカ併存スルヲ謂フ

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ

他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他

ノ刑ヲ科セス但罰金科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

○本條ハ舊刑法ノ一ノ重刑主義ヲ排セリ

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處

ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ

長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ

付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコト

ヲ得ス

○本條ハ一ノ重キ主義ニアラス各罪刑ノ長期合算ニ超過セサル
範圍内ニ於テ最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其ノ半數
ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トシテ刑ヲ適用スルニアリ

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第

一項ノ場合ハ此限ニ在ラス
二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以
下ニ於テ處斷ス

○罰金ト科料及ヒ自由刑ト併存スルキハ併科スルモノナリ

○罰金ト罰金ト併存スルキハ併科セス合算額以下ニ於テ處斷ス
ルモノナリ

第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收トシト雖モ他ノ罪ニ沒

収アルキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ト之ヲ併科ス

○科スヘキ刑ニ附加刑ナクシテ科セサル他ノ刑ニ附加刑アル片
ハ併科スルコトヲ得ルモノナリ

○附加刑ノ併存スル片ハ常ニ併科スルモノナリ

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サ
ル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

○本條ハ確定判決ヲ經タル罪ト確定判決ヲ經サル罪トアル場合
ナリ

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ
其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒
収ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ノ執
行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ

加へタルモノニ超ユルコトヲ得ス

○本條ハ二個以上ノ確定判決アリタルキハ原則トシテ其刑ヲ併ヒテ執行スルモノナリ

○例外アリ

○生命刑ヲ執行スヘキキハ附加刑ノ外他ノ刑ヲ執行セス
犯人ノ生命ヲ絶ツキハ他刑ヲ執行セントスルモ不能ナレハナリ

○無期ノ自由刑ヲ執行スヘキキハ金刑及ヒ附加刑ヲ除クノ外他ノ自由刑ヲ執行セサルナリ

執行不能ナルヲ以テナリ

○有期自由刑ノ併執行ハ最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其ノ半數ヲ加へタル範圍ヲ逸スルコトヲ得サルモノナリ

第五十二條

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

○大赫トハ或ル種類ノ罪ニ對スル訴追又ハ裁判ヲ廢滅セシムル天皇ノ大權命令ナリ

○大赦特赦減刑復權ハ刑法ヨリ削除セリ

○大赦特赦減刑復權ハ憲法上天皇ノ大權ニ屬スルモノニシテ之ヲ刑法ニ規定スルハ條理ニ反スルヲ以テナリ

第五十三條

拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

○參考 第四十六條ハ併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キキハ他ノ

刑ヲ科セス但沒収ハ此限ニ在ラス
其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ片亦他ノ刑ヲ科
セス但罰金科料及ヒ沒収ハ此限ニ在ラス

第五十四條

一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪
ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ル、片
ハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ヲ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

○罪ハ行爲ナリ一ノ行爲カ刑法ノ罰條ニ觸ル、片ハ常ニ一罪ヲ
成立セシム一ノ行爲ニ因リ數罪ヲ成立セシムル場合ナシ

○一、一ノ行爲カ多數ノ法條ニ觸ル、ヲ法律ノ競合ト云フ
此場合ニハ何レノ法條ヲ適用スヘキヤノ問題ヲ生ス

○二、一ノ犯罪行爲カ他ノ犯罪行爲ノ結果ナル片

窃盜罪ト贓物賣却ト、如キ場合

○三、一ノ犯罪行爲カ他ノ犯罪行爲ノ手段トナル片

封印ヲ破棄シテ窃盜ヲナシタル場合

○本條ハ是等ノ問題ヲ解決セシモノナリ

○附加刑ハ併科主義ヲ採ルモノナリ

第五十五條

連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸
ル、トキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

一ノ行爲アレハ一罪成立シ數個ノ行爲アレハ數罪成立スルヲ
原則トスルモ法律ハ特ニ數多ノ行爲相合シテ一罪成立スル場
合ヲ認メタリ連續犯是レナリ

○連續犯ハ同種類ニ屬スル多數ノ行爲ヨリ成ルモノナリ
此場合ニ於テ多數ノ行爲ヲ一ニ連續スルハ其性質ノ同一ナル

ニ因ル性質ノ同一ナルヲ理由トシテ多數ノ行爲ヲ一ニ連結スルニハ其總テカ同一ノ法益ニ對スルヲ及ヒ同種ノ方法ヲ以テ實行セラル、コヲ要スルモノナリ

例ヘハ甲者數度乙者ノ妻タル丙者ト通スルハ一ノ姦通罪ナリ然レモ甲者カ丙者ト通シタル後更ニ丁者ノ妻タル或者ト通スルキハ之ヲ一ニ連結スルコヲ得ス又タ甲者カ數度戸締テキ乙者ノ倉庫ニ入り米俵ヲ竊取スル行爲ハ之ヲ合シテ一ノ連續トナスコヲ得ルモノナリ

第十章 累犯

○累犯トハ再犯以上ノ罪ヲ犯スヲ云フ

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲

役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

○懲役トハ無期有期ノ二者ヲ含ム

○再犯ハ有期懲役ニ限ルモノナリ

○看做トハ其性質再犯ニアラサルモ刑ノ適用ニ付テハ同一ニ取扱フコヲ意味スルモノナリ

舊刑法第九十一條乃至第九十六條ニ該當ス

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

○嶄新正鵠ナル刑罰ナリ

○一等加重主義ノ刑ハ再犯ヲ防止スルヲ能ハサルモノナリ

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキ

ハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後

發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

○本條ハ刑ノ執行中ナルト執行後又ハ執行免除後ナルトニ依リ

區別セルモノナリ

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

○累犯者ノ刑罰モ再犯ト同一ナリ

○再犯以上ノ罪ヲ犯スヲ累犯ト云フ

第十一章 共 犯

○共犯トハ二人以上カ共同シテ罪責ヲ負フヲ謂フ

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ正犯ト

ス

○共同正犯ノ意義ヲ示シタルモノナリ

○共同正犯相互ノ關係

○客觀的ニハ各自ノ行動カ他ノ行動ト相俟テ一ノ犯罪事實ヲ完

成スト云フニアリ

○主觀的ニハ各自ノ間ニ存スル意思ノ連結即チ相互加功ノ認識

ナリ

○共同正犯ニ於テハ各犯人ハ犯罪ノ一部ヲ實行スルモノニシテ

全部ヲ實行スルモノアラスト雖モ其ノ一部ノ實行ノ集合スルニ於テハ全部ノ實行トナルモノナリ故ニ各犯人ハ意思共通ノ範圍内ニ於テハ相互ニ他ノ行動ヲ利用シテ其故意ヲ遂行スルモノナリ

○舊刑法第百四條ニ該當ス

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

○教唆トハ故意ヲ以テ他人ニ犯罪ノ決意ヲ與フルモノヲ謂フ

○法律上ヨリ論スレハ教唆犯ノ行爲ハ造意ヲ以テ完了スルモノナリ

○教唆犯ハ

客觀的ニハ他人ノ犯罪決意ニ原因ヲ與フヘキ行動アルヲ要ス即チ教唆犯ノ行動ト他人ノ犯罪決意トノ間ニ因果ノ關係アルヲ要ス

主觀的ニハ他人ノ犯罪決意ヲ惹起ス故意アルヲ要ス即チ教唆犯ハ自己ノ行動ト他人ノ犯罪決意トノ間ニ存スル因果ノ關係ヲ認識スルヲ要ス

○間接ノ教唆モ直接ノ教唆ト同一ナリ

○舊刑法第百五條ニ峻當ス

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

○從犯ノ意義ヲ示シタルモノナリ

○從犯トハ故意ヲ以テ正犯ヲ幫助スルモノヲ謂フ

○ 幫助ノ手段方法ハ問ハサルナリ
○ 從犯ハ

客觀的ニハ他人ノ犯罪ヲ幫助スル行動アルヲ要ス

從犯ノ行動ハ實行ニ至ラサル行動ナリ之ヲ正犯カ爲シタリト

セハ豫備ノ行爲トナルヘキモノナリ

主觀的ニハ他人ノ犯罪ヲ幫助スルノ故意アルヲ要ス

○ 從犯ノ教唆ハ之ヲ罰スルモ從犯ノ從犯ハ之ヲ罰スルヲ得サル
モノナリ

○ 舊刑法第百九條ニ該當ス

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

○ 裁判官ニ裁量ノ自由ヲ與ヘタルモノナリ

○ 舊刑法第百九條ニ該當ス

第六十四條 拘留及ヒ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ

從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

○ 教唆犯及ヒ從犯ノ例外ナリ

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功

シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ

通常ノ刑ヲ科ス

○ 本條ハ刑法理上有數シタル難問ヲ解決シタルモノナリ

○ 身分ニ因リ構成スヘキ犯罪ハ身分ナキモノ共同シテ之ヲ犯ス
ヲ得ルヤ

例ヘハ官吏濫職罪ハ官吏タル身分ヲ成立要素トスルモノナリ

故ニ官吏濫職罪ハ非官吏單獨ニ犯スヲ得サルモ共犯トシテ

犯スコトハ得ルモノナリ

○身分ニ因リ刑ヲ輕重スル犯罪ハ殺親罪ノ子タル身分ノ如シ

○舊刑法第百六條及ヒ第百十條ニ該當ス

第十二章 酌量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀・憫諒スヘキモノハ酌量シテ其刑ヲ

減輕スルコトヲ得

○舊刑法第八十九條第一項ニ該當ス

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ

仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

○犯情憫諒ハ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ニモアルモノナリ

○酌量減輕ハ法律ノ涙ナリト云フモ敢テ過言ニアラサルヘシ

○舊刑法第八十九條第二項ニ該當ス

第三章 加減例

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原

由アルトキハ左ノ例ニ依ル

一死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス

二無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

三有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

四罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

○舊刑法第六十六條乃至第七十四條ニ該當ス

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第七十條 懲役禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩スルトキハ之ヲ除棄ス
罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ壹錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

○舊刑法第七十三條第七十四條ニ該當ス

第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦タ第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

○舊刑法第九十條ニ該當ス

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

○舊刑法第九十九條ニ該當ス

第二編 罪

○罪トハ國家カ刑罰ノ制裁ヲ付シタル不法行爲ナリ

第一章 皇室ニ對スル罪

第七十三條 天皇太皇太后皇太后皇后皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

○ 既遂未遂ナリ

○ 舊刑法第百十六條ニ該當ス

第七十四條 天皇太皇太后皇太后皇后皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬行爲アリタル者亦同シ

○ 神宮ハ皇祖ノ神靈ヲ奉安セル處ナリ

○ 皇陵トハ皇祖及ヒ歷代ノ天皇ノ御憤墓ナリ

○ 舊刑法第百十七條ニ該當ス

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル名ハ無期懲役ニ處ス

○ 既遂未遂ハ區別ナリ

○ 皇族トハ皇室典範第三十條ヨリ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太孫ヲ除キタル皇族ヲ云フ

○ 皇室典範第三十條ニ依レハ太皇太后皇太后皇后皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王妃親王妃内親王王妃女王ヲ謂フ

○ 舊刑法第百十八條ニ該當ス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

○ 不敬行爲トハ皇室ノ尊榮ヲ傷クヘキ言語文書舉動一切ノ總稱ナリ

○ 舊刑法第百十九條ニ該當ス

第二章 内乱ニ關スル罪

○ 内乱トハ不正確ナル語ニシテ其意義ハ之ヲ常識ニ訴ヘテ判断

セサルヘカラス思フニ内亂ハ宣戰ヲ布告スルニ至ラサル戰
争ノ状態即チ政治的ノ意義ヲ有セル大ナル暴動ヲ謂フナルヘ
シ

第七十七條

政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊

亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪

ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又

ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタ

ル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以上

ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者
ハ此限ニ在ラス

○ 朝憲紊亂トハ國家社會自体ノ秩序ヲ破壞スルヲ謂ヒ國家社
會自体ノ秩序ヲ破壞スルトハ刑法ニ例示スル如ク政府ノ顛覆
邦土ノ僭竊ハ勿論凡テ法律ニ規定シタル國家制度ノ破壞ヲ謂
フモノトス

○ 暴動トハ多衆共同シタル不法ノ腕力又ハ脅迫ヲ謂フ

○ 主魁トハ暴動自体中ノ事實上ノ最優者ニシテ暴動開始ノ際ニ
於ケル最優者ナルヲ通常トスト雖モ時ニハ暴動開始後ニ干
與セル者ニシテ而モ其前ノ最優者ヲ壓倒シテ遂ニ暴動團體間
ノ最優者タルヲナキニアラス刑法ニ主魁ト云フハ寧ロ暴動鎮
定ノ際ニ於ケル最優者ヲ云フモノナリ

○附和隨行トハ暴動ニ干與シタル者即チ機械的ノ勞役ニ服シタル者ヲ謂フナリ

○舊刑法第二百一十一條ニ該當ス

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上

十年以下ノ禁錮ニ處ス

○豫備トハ陰謀ヲ除ク外内亂ヲ犯ス一切ノ準備ヲナスヲ云フ

○陰謀トハ多衆間ニ内亂ヲ犯スノ合意ヲ爲スヲ云フ

○舊刑法第二百五條ニ該當ス

第七十九條 兵器金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二

條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

○内亂ノ幫助行爲ナリ

○舊刑法第二百二十七條ニ該當ス

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前

自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

○刑事政策ナリ

○舊刑法第二百六條ニ該當ス

第三章 外患ニ關スル罪

○外患トハ帝國ノ外部列國ニ對スル存在ヲ害シ又ハ不安ナラシムルモノナリ

○國家ノ存在ニハ内部自身ニ對スルト外部列國ニ對スルトノ二方面アリ之カ條件ハ不霸最高ノ權力ニ據リ國家自ラ之ヲ画策スルモノナリ内亂ハ内部ニ關シ外患ハ外部ニ對スルモノナリ

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與ミシテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

○ 敵國トハ日本帝國カ戦争開始シタル外國ヲ云フ

○ 戦争開始ノ時期ニ付テハ國際公法上議論アリ

宣戰布告ナリト

實戰衝突ナリト

○ 舊刑法第二百二十九條ニ該當ス

第八十二條 要塞陣營軍隊艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ

建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ

死刑又ハ無期懲役ニ處ス

○ 舊刑法第三百十條ニ該當ス

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞陣營艦船兵器彈藥汽車

電車鐵道電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若

クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又
ハ無期懲役ニ處ス

○ 遠因ヲ有スル犯罪ナリ

○ 帝國ノ軍用ニ供スル場所及ヒ物ナラサルヘカラス

○ 敵國ヲ利スル爲トハ遠因ヲ云フ

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器彈藥其他直接ニ戰

闘ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ

三年以上ノ懲役ニ處ス

○ 本條ハ當然敵國ヲ利スルモノト法定セリ

○ 遠因ノ如何ヲ向ハサルモノナリ

○ 交付トハ引渡即チ占有ノ移轉ヲ云フ

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫

助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

○間諜ノ何タルヤハ國際法ニ於テ決スヘキ問題ナリ

總テ交戦者ニアラスシテ一國ノ軍事上又ハ外交上ノ秘密ヲ探偵スル者ト解スヘシ

○軍事上ノ機密トハ漏泄ヲ禁シタルモノヲ云フ

○舊刑法第三百三十一條ニ該當ス

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

○以外ノ方法トハ範圍廣大ナリ苟モ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ

又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害スル行爲ハ如何ナル行爲ナリト

モ本條ノ適用ヲ受クルモノナリ

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ

豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○豫備トハ陰謀ヲ除ク外一切ノ準備行爲ヲ云ヒ

○陰謀トハ二人以上ノ間ニ外患ニ關スル罪ヲ犯スノ合意ヲ云フ

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章 國交ニ關スル罪

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴

行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

○外國ノ君主又ハ大統領ハ外國主權者ナリ

○暴行トハ不法ノ腕力ヲ云フ

○脅迫トハ人ヲシテ畏怖心ヲ胞カシムヘキ害惡ノ通知ヲ云フ

○侮辱トハ名譽ヲ傷害スル行爲ヲ云フ

○名譽トハ他人間ニ於テ敬重セラル、事實ヲ云フ

○侮辱ハ外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論スルモノナリ

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行

又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

○外國ノ使節トハ其本國又ハ君主ヲ代表シテ我國ニ於テ國際法上ノ行動ヲ爲スモノヲ云フ

大使全權公使辨理公使等は是レナリ

○暴行トハ屢々説明セシ如ク不法ノ腕力ナリ

○脅迫トハ人ヲシテ畏怖心ヲ胞カシムヘキ害惡ノ通知ナリ

○侮辱トハ名譽傷害ニ關スル行爲ナリ

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下

ノ懲役又ハ貳百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

○本條ハ遠因ヲ有スル犯罪ナリ

第九十三條

外國ニ對シ私ニ戰鬥ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

○本條ハ遠因ヲ有スル犯罪ナリ

○私ニ戰鬥ヲ爲ストハ外國家ニ對スル個人ノ戰鬥ヲ云フ

○豫備及ヒ陰謀ノ何モノタルヤハ第八十八條ノ說明參照スヘシ

○自首トハ第四十二條ノ說明參照スヘシ

○舊刑法第三百三十三條ニ該當ス

第九十四條

外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令ニ背違シ

タル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○外國交戦ノ際トハ外國間ノ交戦開始ノ前後ヲ意味スルモノナリ

○局外中立トハ國際法上ノ成語ニシテ二個以上ノ外國カ戰爭ヲ開始シタル際其何レノ國家ニモ好意又ハ惡意ヲ表示セサル第三國ノ地位ヲ謂フ

○布告ヲ以テ其地位ヲ公表スルヲ通常トス

○國家カ中立ヲ表示シタル片ハ中立ニ關スル命令ヲ發スルモノナリ

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條

公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ

處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辞セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

○公務員トハ第七條第一項ニ官吏公吏法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂フ

○暴行トハ不法ノ腕力ヲ云フナリ

○脅迫トハ人ヲシテ畏怖心ヲ胞カシムヘキ害惡ノ通知ヲ云フナリ

○官吏侮辱罪ハ之ヲ廢セリ

○官尊民卑ノ舊弊ヲ除去シタル文明ノ法理ナリ

官吏モ然ラズリ侮辱ハ官吏ノミノ獨占スヘキモノナルノ理由ナ

シ

○舊刑法第三百二十九條及ヒ第四百十一條ニ該當ス

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞

シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ參百圓以下ノ罰金ニ處ス

○公務員トハ前條説明參照スヘシ

○舊刑法ハ封印破棄トアルモ封印ヲ破棄セスシテ封印ヲナシタル目的ヲ無効ナラシメタル場合ニハ適用スルヲ能ハズ又封印ヲ爲シタル目的ヲ害セサルモ封印ヲ破棄シタルトキハ之ヲ罰セラル、モノトナセルモ本法ハ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタルモノト改正シ舊法ノ不都合ナル場合ヲ避ケタルモノナリ

○舊刑法第七十四條第七十五條及ヒ第七十六條ニ該當ス

第六章 逃走ノ罪

第九十七條 既決未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

○逃走トハ他ノ勢力ト同一ノ場所ニアルコトヲ欲セサル爲メ其場所ヲ退去スル作用ヲ謂フ

○他ノ勢力内トハ事實上監視力ノ及フ区域内ナリ

○舊刑法第四百十二條第一項及ヒ第四百十一條ニ該當ス

第九十八條 既決未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ機具ヲ損壞シ若クハ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○暴行トハ前ニ屢々説明セル如ク不法ノ腕力ナリ

○脅迫トハ人ヲシテ畏怖心ヲ抱カシムヘキ害惡ノ通知ナリ

○通謀トハ逃走ノ合意ナリ

○舊刑法第四百十二條第二項第四百十五條ニ該當ス

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○奪取トハ刑法ニ所謂劫奪ナル行爲ナリ要スルニ暴行又ハ脅迫ヲ以テ囚徒ヲ其監視内ヨリ自己ノ勢力内ニ移ラシムル行爲ヲ云フモノト解スヘシ

○舊刑法第四百十七條ニ該當ス

第一百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○本條ハ遠因ヲ要スル犯罪ナリ

○器具給與シ逃走ヲ容易ナラシムル行爲トハ幫助行爲ナリ

○暴行脅迫ハ前ニ説明セリ

○舊刑法第四百十六條ニ該當ス

第一百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○舊刑法第四百十八條ニ該當ス

第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○舊刑法第四百十九條ニ該當ス

第七章 犯人藏匿及ヒ証憑湮滅ノ罪

第一百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

○藏匿トハ犯人ヲ自己ノ勢力内ニ居留セシムル行爲ヲ云フ

例ハハ自宅ニ潜伏セシムルカ如シ

○隠避トハ退去スル行爲ヲ云フ

例ハハ犯人ヲ一定ノ地ニ逃走セシムルカ如シ

○舊刑法第五十一條ニ該當ス

第一百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル証憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ証憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

○証憑トハ証據及ヒ微憑ヲ併合シタルモノナリ即チ刑事被告事件ニ關スル一切ノ証據ヲ云フ

○舊刑法第五百二十二條ニ該當ス

第一百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

○人情ノ纏綿上止ムヲ得サルニ出テタルモノナリ

○舊刑法第一百五十三條ニ該當ス

第八章 騷擾ノ罪

第一百六條 多數衆合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ

六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○舊法ノ兇徒多聚ヲ多數衆合ト改正セリ

兇徒ナル語ハ我國語上ヨリ謂フ片ハ穢惡ナル人衆ヲ稱スルモノナリト雖モ騷擾ノ罪ハ必スシモ兇徒ナル穢惡ナル人衆タル

ヲヲ要セス單ニ人衆即チ人ノ多數ナルヲ以テ足ルモノナリ

○暴行トハ不法ノ腕力ナリ

○脅迫トハ人ヲシテ畏怖心ヲ抱カシムヘキ害惡ノ通知ナリ

○主魁トハ暴動自体中ノ事實上ノ最優者ニシテ暴動開始ノ際ニ

於ケル最優者ナルヲ通常トスト雖モ時ニハ暴動開始後ニ干

與セル者ニシテ而モ其前ノ最優者ヲ壓倒シテ遂ニ暴動團體間

ノ最優者タルヲナキニアラス刑法ニ主魁ト云フハ寧ロ暴動鎮

定ノ際ニ於ケル最優者ヲ云フモノナリ

○附和隨行トハ暴動ニ干與シタル者即チ機械的ノ勞役ニ服シタル者ヲ謂フナリ

○舊刑法第三百三十七條ニ該當ス

第一百七條

暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○當該公務員トハ行政警察ヲ爲ス權限ヲ有スル官吏特ニ不穩ノ集合ニ對シテ解散ヲ命スル權限ヲ有スルモノヲ云フ

例ハ府縣知事警視總監警部長警部巡查其他特別ノ行政警察ヲ司ルモノ等ナリ

○解散トハ暴動ヲ爲スコトヲ謀リ聚合シタル多衆ノ離散スルコトヲ謂フ

○遠因ヲ要スル犯罪ナリ

遠因トハ暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メナルコトナリ

○舊刑法第三百三十六條ニ該當ス

第九章 放火及ヒ失火ノ罪

第一百八條

火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

○燬ハ火焚壞也火ヲ以テ物質ヲ燬損スルノ謂ナリ

○放火ノ既遂未遂ノ分界ニ對スル學說

一、目的物ニ火ヲ傳フヘキ媒介物燃出シタルキハ既遂ナリト

二、目的物ヲ燃出シタルキハ既遂ナリト

三、目的物カ危険ナル有様ニ陥リタルキ即チ目的物ノ燃出シタル火力カ爾後自然ノ勢ニ依テ燃廣カルヘキ狀況ニ至レルキハ既遂ナリト

四、各目的物ノ性質ニ從ヒ其用ヲ失フニ至レルキハ既遂ナリト

○舊刑法第四百二條第四百五條第一項ニ該當ス

第九條

火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危険ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス
○但書ハ所有權自由處分ノ原則ニ立チ歸リタルモノナリ

○舊刑法第四百三條第四百五條第二項第四百七條ニ該當ス

第十條

火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○舊刑法第四百四條第四百六條ニ該當ス

第十一條

第九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第八條又ハ第九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

○自己ノ所有物焼燬ノ結果他ニ延焼シタル場合ヲ云フナリ

第一百十二條 第八條及ヒ第九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百三條 第八條又ハ第九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

○遠因ヲ要スル犯罪ナリ

第十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隠匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○特ニ鎮火用トシテ製シタル物ナリ

第十五條 第九條第一項及ヒ第十條第一項ニ記載シ

タル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

○自己ノ所有物ニ對スル制限ノ場合ナリ

第十六條 火ヲ失シテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ參百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第一百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

○過失犯ヲ罰スル特別規定ナリ

○過失トハ認識スルコトヲ要シ且ツ認識スルコトヲ得ル事實ヲ認識

セサルヲ謂フ

○過失ハ不注意ヲ以テ骨子トナスモノナリ

○舊刑法第四百九條ニ該當ス

第一百七條 火藥汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

○舊刑法第四百十條ニ該當ス

第一百八條 瓦斯電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又

ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命身体又ハ財産ニ危険ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
瓦斯電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第一百九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建物漁車電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

○溢水ノ方法ニ制限ナシ

○溢水ノ結果ニ制限ナシ

○舊刑法第四百十一條第一項ニ該當ス

第二百十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル

○公共ノ危険ヲ生セサル場合ハ適用ナシ

○舊刑法第四百十一條第二項及ヒ第四百十二條ニ該當ス

第二百十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○特ニ防水用トシテ製リタル物ナリ

○水防ヲ爲サル消極的行爲ハ含まサルナリ

第二百十二條 過失ニ因リ溢水セシメ第百十條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ參百圓以下ノ罰金ニ處ス

○過失犯ヲ罰スル特別規定ナリ

○過失ノ意義ハ第百十六條ニ説明セリ

○舊刑法第四百十四條ニ該當ス

第二百十三條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ貳百圓以下ノ罰金ニ

處ス

○堤防決潰水閘破壞ハ水利妨害行爲及ヒ溢水行爲ノ一方法ナリ
舊刑法第四百十三條ニ該當ス

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

第二百二十四條 陸路水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ貳百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

○損壞壅塞ト往來妨害トハ因果關係アルヲ要ス

○舊刑法第六十二條及ヒ第六十八條ニ該當ス

第二百二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ

以テ瀛車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

○鐵道又ハ標識ノ損壞ハ瀛車電車ノ往來危險ノ一方法ナリ

○燈臺又ハ浮標ノ損壞ハ艦船往來危險ノ一方法ナリ

○舊刑法第六十五條及ヒ第六十六條ニ該當ス

第二百二十六條 人ノ現在スル瀛車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壞シタル者亦同シ
前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

○舊刑法第四百十五條及ヒ第四百十六條ニ該當ス

第二百二十七條 第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ瀛車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

○舊刑法第六十九條ニ該當ス

第二百二十八條 第二百二十四條第一項第二百二十五條及ヒ第二百二十六條第一項第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○舊刑法第七十條ニ該當ス

第二百二十九條 過失ニ因リ瀛車電車又ハ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシメ又ハ瀛車電車ノ顛覆若クハ破壊ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
其ノ業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年

以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○過失犯ヲ罰スル特別規定ナリ

○過失トハ前ニ屢々説明セシ如ク認識スルコトヲ要シ且ツ認識スルコトヲ得ル事實ヲ認識セサルヲ謂フ

○不注意ヲ以テ骨子トナス

第十二章 住居ヲ侵ス罪

第三百十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅建造物

若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○家宅權侵害ノ性質

「マイエル」ハ所謂家宅權ノ妨害トハ其支配區域内ニ全然其意思

ヲ實行スルニ關スル權利ノ侵害ニシテ公ノ秩序ニ關スル罪ニ
アラス自由ニ對スル罪ナリト云ヒ

「リスト」ハ家宅權トハ自己ノ住所及圍障地域内ニ於テ自由ニ自
己ノ意思ヲ實行スルヲ即チ自由ニ家宅及ヒ庭地ヲ管理スルヲ
ニ關スル法律上保護セラル、利益ナリ故ニ人的自由ニ類似ス
ルモ尙ホ特種ノ法物ナリト云ヘリ

○晝夜ノ區別ナシ

○「故ナク」トハ

- 一 正當ノ事由ナクシテト解スヘシト
- 二 權利ナクシテト解スヘシト
- 三 承諾ヲ得スシテト解スヘシト

○憲法第二十五條日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其承

諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及ヒ搜索セラル、コナシト即チ
日本臣民ハ家宅權ヲ有スルコトヲ保障シタル一例ナリトス

○邸宅トハ俗ニ所謂屋敷ヲ謂フ即チ一家ノ構内ヲ謂フ
多少ノ圍障物アリテ構内ト構外トヲ別ツニアラサレハ或ハ邸
宅内トハ云ヒ難カルヘシ

○看守トハ有形的又ハ無形的看守ヲ謂フ

○建造物トハ學校官廳神社佛閣又ハ人ノ住居セサル邸宅其他ヲ
謂フ

○舊刑法第七十一條及ヒ第七十二條ニ該當ス

第三百三十一條 故ナク皇居禁苑離宮又ハ行在所ニ侵入シタ
ル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

○故ナクノ意義ハ前條ヲ参照スヘシ

○舊刑法第七十三條ニ該當ス

第三百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三章 秘密ヲ侵ス罪

第三百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

○故ナクトハ第三百三十條ヲ参照スヘシ

○信書トハ或一定ノ人カ或一定ノ人ニ對シテ其意思ヲ通スルカ爲メ送達スル所ノ書狀ヲ謂フ

○封緘シタル信書ニ限定セリ

第三百三十四條 醫師藥劑師藥種商產婆辨護士辨護人公証人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコ

トニ付知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

○故ナクノ意ハ第三百三十條参照スヘシ

○秘密ノ何ナリヤニ就テハ二說アリ

- 一、主觀的ニ委託者ノ意思ヨリ觀察シ委託者カ秘密ニ付スヘキ旨ヲ明示シタル事項又ハ明示セスト雖モ秘密ニ付スルニ付キ重大ノ利益ヲ有スル事項ハ秘密ナリト云フト
- 二、客觀的ニ一般ニ知ラレタル事項ナリヤ否ヤニ因リ觀察シ被委託者ノミ知リ得タル事項又ハ其他ノ者ノ知リ得タル場合ナル

モ其他ノ者カ秘察ニ付スヘシト認ムヘキモノカ秘密ナリト云
フト

○余主觀說ヲ採ル

○本條ハ一方ニハ同職ノ地位信用ヲ害シ一方ニハ公衆ノ便益必
要ヲ缺クニ至ル

○舊刑法第三百六十條ニ該當ス

第三百十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

○國家ノ公益ヲ害スルヨリ個人ノ私益ヲ害スルヲ重大ナルヲ以
テ被害者ノ意思ニ放任セルモノナリ

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

第三百十六條 阿片煙ヲ輸入製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ
目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲

役ニ處ス

○舊刑法第二百三十七條ニ該當ス

第三百十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入製造又ハ販賣
シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以
上五年以下ノ懲役ニ處ス

○舊刑法第二百三十八條ニ該當ス

第三百十八條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸
入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ
懲役ニ處ス

○舊刑法第二百三十九條ニ該當ス

第三百十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ
處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

○阿片煙吸食ノ惡風防止ニ出テタルモノナリ

○舊刑法第二百四十一條及ヒ第二百四十條ニ該當ス

第四百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者

ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

○舊刑法第二百四十二條ニ該當ス

第四百十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章 飲料水ニ關スル罪

第四百十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○人ノ飲料トハ莫然ナリ

○立法者ノ意思ハ井戸ノ如ク専ラ不定多數ノ人ノ日常使用スヘキ飲料水ノミヲ想像シ器ニ盛リテ某ニ與フル飲ミ水ノ類ヲ含マスト信ス

○舊刑法第二百四十三條ニ該當ス

第四百十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ

其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用ユルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

○公衆ニ供給スル飲料ノ水道ニ由ルモノト限定セリ

第四百十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康

ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
○毒物トハ僅少ナル分量ヲ以テ化學的ニ生命ヲ害スヘキ物質ヲ

謂フ

百五

○舊刑法第二百四十四條ニ該當ス

第四百四十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

○舊刑法第二百四十五條ニ該當ス

第四百四十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

○公衆ニ供給スル飲料ノ水道ニ限定セリ

第四百四十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○公衆ノ飲料用ノ水道ニ限定セリ

第十六章 通貨偽造ノ罪

第四百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造變造ノ貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交附シ若クハ輸入シタル者亦同シ

○本罪ハ行使ノ目的ナラサレハ成立セサルモノナリ

○通用トハ國法上ノ交換手段タルヲ謂フ

○通貨トハ交換ノ手段トシテ國家ノ認ムル物件ナリ

(正貨ハ價格ノ標準ニシテ且ツ自ラ價格ヲ帶有スルモノナリ)

○貨幣トハ金銀白銅青銅ノ硬貨ヲ云フモノナリ

○通貨ハ國家カ製造發行スルヲ原則トシ例外トシテ銀行カ發行スルコアリ

○明治三十年三月法律第十六號貨幣法第一條ニハ貨幣ノ製造及ヒ發行ノ權ハ政府ニ屬スト規定シ

○明治十五年六月三十二號布告日本銀行條例第十四條ニハ日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スル權ヲ有ス云々ト

○交附トハ引渡ス即チ占有ヲ移轉スル行爲ヲ云フ

○偽造トハ眞貨ヲ基礎トナサスシテ他ノ眞貨ヲ模造スルヲ謂フ其模倣ハ一般世人ヲシテ眞貨ナリト錯誤セシムル程度ニ達スルコヲ必要トス

○變造トハ眞貨ヲ基礎トナシ他ノ眞貨ヲ模造スルコ又ハ眞正ノ鑄造貨幣ノ原質ヲ削減スルコヲ謂フ

○行使トハ所謂流通ニ置クノ義ニシテ流通ニ置クト云フハ眞貨トシテ通用スヘキ手段ヲ施スコヲ謂フ

○舊刑法第百八十二條及ヒ第百八十四條第百八十五條ニ該當スル幣紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上

ノ有期懲役ニ處ス

偽造變造ノ外國ノ貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

○前條參照スヘシ

○舊刑法第百八十三條ニ該當ス

第百五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造變造ノ貨幣紙幣又ハ銀

行券ヲ取得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

○舊刑法第九十條ニ該當ス

第一百五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○舊刑法第八十六條第一項ニ該當ス

第五十二條 貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル後其偽造

又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ

以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又

ハ科料ニ處ス但壹圓以下ニ降スコトヲ得ス

○取得當時ニハ偽造變造タルヲ知ラスシテ後ニ至リ知リタルモ

ノナリ

○舊刑法第九十三條ニ該當ス

第五十三條 貨幣紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ

供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月
以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○舊刑法第八十六條第二項ニ該當ス

第十七章 文書偽造ノ罪

第五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽國璽若クハ御名ヲ使
用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽國
璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル
者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書
ヲ變造シタル者亦同シ

○行使ノ目的ハ文証偽造罪ノ成立要素ナリ

○行使トハ偽造又ハ變造ノ文書タルニ拘ハラズ之ヲ真正ノ文書

トシテ使用スルヲ謂フ

○御璽トハ天皇ノ御印ヲ云フ

○國璽トハ大日本帝國ノ印ヲ云フ

○詔書トハ天皇カ主權者タル資格ニ於テ發布セララル、意思表示書ヲ概稱スル語ナリ

○文書トハ文字又ハ符號ヲ以テ或ル物品ノ上ニ附着セシメタル思想ノ説明ナリ

○御名ハ至尊ノ御名ナリ

○偽造變造ハ第四百四十八條參照スヘシ

○舊刑法第二百二條第一項第九十四條第九十七條ニ該當ス
若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文

第一百五十五條

行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章

書若クハ圖書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務

員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作
ル可キ文書若クハ圖書ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年
以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ
圖書ヲ變造シタル者亦同シ

第二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖
畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若
クハ圖書ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓
以下ノ罰金ニ處ス

○行使ノ目的ハ本罪成立ノ一大要素ナリ

○公務所トハ第七條第二項公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

○公務員トハ第七條第一項官吏公吏法令ニ依リ公務ニ従事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂フ

○印章トハ印類ナルカ印影ナルカ大ニ議論アレハ印影ノミカ眞正ノ印章ト云ヒ得ヘキモノニシテ印類ノ如キハ單ニ印影ヲ製作スル専用ノ器具タルニ過キス故ニ印影ヲ保護スルニハ印類ヲモ保護セサレハ印影ノ保護モ完全ナリト云フコトヲ得サルナリ

○舊刑法第二百三條第一項及ヒ第九十五條第九十七條ニ該當ス

第百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

○虚偽トハ眞實ニ反シタルモノヲ云フ

○公務員ハ前條参照スヘシ

○舊刑法第二百五條第一項ニ該當ス

第百五十七條 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ

關スル公正証書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○公務員ハ第百五十五條参照スヘシ

○虚偽トハ眞實ニ反シタルコト即チ不實ナルモノナリ

○公正証書トハ公務員カ法定ノ形式ニ依リ作製シタル証書ナリ
○舊刑法第二百十四條第二百十一條ニ該當ス

第五百十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○舊刑法第二百二條第一項第二百三條第一項第二百四條第二百五條第一項第二百六條ニ該當ス

第五百十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實証明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使

用シテ權利義務又ハ事實証明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實証明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外權利義務又ハ事實証明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 印章ハ第五百五十五條ヲ參照スヘシ
- 文書ハ第五百五十四條ヲ參照スヘシ
- 偽造變造ハ第四百四十八條ヲ參照スヘシ
- 行使ノ目的ハ本罪ノ一大要素ナリ

○自己以外ノ者ノ印章ナリ

○文書圖画ヲ偽造變造スルヲ要スルモノナリ

○舊刑法第二百九條第二百十條第二百八條ニ該當ス

第六十條

醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書檢案書又ハ死亡証書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○舊刑法第二百十五條第二項ニ該當ス

第六十一條

前二條ニ記載シタル文書又ハ圖画ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○行使トハ偽造變造又ハ虛偽ノ記載ナルヲ知テ使用シタルモ

ノナリ

前條ハ行使ノ目的ニテ偽造變造シタルモノナリ

○舊刑法第二百九條第二百十條及ヒ第二百十三條第二百十五條第二百十一條第二百十六條第二百十七條ニ該當ス

第十八章 有價証券偽造ノ罪

第六十二條

行使ノ目的ヲ以テ公債証券官府ノ証券會社ノ株券其他ノ有價証券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
行使ノ目的ヲ以テ有價証券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

○有價証券トハ權利ノ利用ニ証書ノ占有ヲ必要トスル証券ヲ謂フ

○公債証券官府ノ証券會社ノ株券ハ有價証券ノ一例ヲ舉ケタルモノナリ

○行使ノ目的ハ本罪成立一大要素ナリ

○舊刑法第二百四條及ヒ第二百九條ニ該當ス

第六十三條

偽造變造ノ有價証券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價証券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○行使トハ真正ノモノトシテ流通セシムルモノヲ云フ

○交付トハ行使ノ目的ヲ以テ占有ヲ移轉スルヲ云フ

○舊刑法第二百九條第二百四條第二百一十一條ニ該當ス

第十九章 印章偽造ノ罪

第六十四條

行使ノ目的ヲ以テ御璽國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

○本條第一項ハ行使ノ目的ヲ要素トナシタルモノナリ

○不正トハ違法ノ意ナリ

○偽造トハ新ニ眞印ヲ模造スルヲ云フナリ

○御璽ハ天皇ノ御印ヲ云フナリ

○國璽ハ大日本帝國ノ印章ヲ云フナリ

○御名ハ至尊ノ御名ヲ云フナリ

○舊刑法第九十四條及ヒ第九十七條ニ該當ス

第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章

若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

○公務所公務員トハ第七條参照スヘシ

○偽造ノ意義ハ第四百四十八條参照スヘシ

○印章ノ意義ハ第五百五十五條参照スヘシ

○舊刑法第九十五條及ヒ第九十七條ニ該當ス

第六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ

記號ヲ使用シタル者亦同シ

○行使ノ目的ヲ要スルモノナリ

○記號トハ公務所カ產物商品等ノ検査済ヲ表示スルモノ又ハ什物書籍等ニ公務所ノ所有ナリト云フヲ表示スル記號等ヲ云フ

○不正トハ違法ナリ

○舊刑法第九十六條及ヒ第九十七條ニ該當ス

第六十七條 行使ノ目的ヲ以テ人ノ印章若クハ署名ヲ偽

造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

○行使ノ目的ハ犯罪成立ノ要素ナリ

○印章ノ意義ハ第五百五十五條ニアリ

○偽造ノ意義ハ第四百四十八條ニアリ

○不正トハ違法ナリ

○舊刑法第二百八條ニ該當ス

第六十八條 第六十四條第二項第六十五條第二項第

百六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○舊刑法第二百條第二百十一條ニ該當ス

第二十章 偽証ノ罪

第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル証人虚偽ノ陳述ヲ爲

シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○宣誓トハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事モ黙秘セス又ハ附加セサ

ル旨ノ誓言ナリ

(刑事民事訴訟法等ニアリ)

○証人トハ事實ヲ見聞セル者カ方式ニ據リ其ノ供述ノ義務ノ生

シタル時ニ始メテ証人ナルモノヲ生ス換言セハ証人トシテ呼

出サレタル時ニ始メテ証人トナルモノナリ

○舊刑法第二百十八條乃至第二百二十三條及ヒ第四百二十五條

ニ該當ス

第七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者証言シタル事件ノ裁判

確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又

ハ免除スルコトヲ得

○公務員ノ懲戒處分ナリ

○公務員ハ特別ノ法令ニ因リテ一般臣民ノ負擔セサル各種ノ義

務ヲ負擔ス此義務ニ違背スルハ懲戒處分ヲ免ル、コトヲ得サ

ルモノナリ (服務規律官吏分限令参照スヘシ)

○舊刑法第二百二十六條ニ該當ス

第七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虚偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

○宣誓ハ第六十九條ヲ参照スヘシ

○鑑定人トハ特別ノ智識能力ヲ有スル者カ方式ニ依リ其ノ意見ヲ供述スル義務ノ生シタルキ始メテ鑑定人ナルモノヲ生ス

○通事トハ通譯者ナリ

○舊刑法第二百二十四條第二百五條ニ該當ス

第二十一章 誣告ノ罪

第七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ

○誣告罪ノ性質ハ私人ノ名譽並ニ國家ノ行政司法ニ關スル罪ナリ

○目的即チ遠因ヲ要スル犯罪ナリ

○虚偽ノ申告トハ不實ノ通告ナリ

○申告行爲アルト共ニ成立スルモノナリ

○舊刑法第三百五十五條第三百五十七條第三百六十三條ニ該當ス

第七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

○舊刑法第三百五十六條ニ該當ス

第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

第一百七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

○猥褻行爲ニ對スル學說

「マイエル」ハ猥褻行爲トハ自己及ヒ他人ノ淫情ヲ激勵スヘキ行爲ヲ謂フトナシ

「リスト」ハ猥褻行爲トハ淫情ヲ勵マシ又ハ之ヲ滿タスヘキ行爲又ハ否ラスト雖モ激勵シタル淫心ヲ表示シ且ツ淫事ニ關スル風儀上ノ威嚴ヲ甚大ニ傷害スル行爲ヲ謂フ

「フランク」ハ猥褻行爲トハ淫情的ノ性質ヲ有セサルヘカラス詳言スレハ其行爲ハ客觀的ニ淫事ニ關スル威儀又ハ風儀ヲ甚大ニ傷害シ主觀的ニ淫慾ノ目的ヲ以テ爲シタルモノナラサルヘカラス

○第三說ハ多數ナリ

○公然トハ事實問題ナリ

○舊刑法第二百五十八條ニ該當ス

第一百七十五條 猥褻ノ文書圖書其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

○春画等ノ如シ

○舊刑法第二百五十九條ニ該當ス

第一百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

○男女トハ男子又ハ女子ナリ

○ 暴行トハ不法ノ腕力ナリ

○ 脅迫トハ人ヲシテ畏怖心ヲ胞カシムヘキ害悪ノ通知ナリ

○ 舊刑法第三百四十六條及ヒ第三百四十七條ニ該當ス

第七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦

淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處

ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

○ 暴行トハ不法ノ腕力ナリ

○ 脅迫ハ強姦罪ノ場合ニハ解釋トシテ暴行ノ脅迫ニシテ且ツ現

在ノ危難ニ關スルコトヲ必要ナリト信ス

○ 舊刑法第三百四十八條第一項及ヒ第三百四十九條ニ該當ス

第七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之

ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥

褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

○ 病的作用ニ依リ抗拒不能トナリタル場合又ハ藥酒等ヲ用ユテ

心神ヲ喪失セシメタル場合又ハ藥物催眠術等ヲ使用シテ抗拒

不能ナラシメタル場合等ノ如シ

○ 舊刑法第三百四十九條及ヒ第三百四十八條第二項ニ該當ス

第七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

○ 親告罪ナリ

○ 舊刑法第三百五十條ニ該當ス

第八十一條 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役

ニ處ス

○結果罪ナリ

○舊刑法第三百五十一條ニ該當ス

第八十二條

營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○營利ノ目的ナル遠因ヲ要スル犯罪ナリ

○常習トハ淫行ヲ數度繰返シタルモノナリ之ニ反スルモノハ常習ナキモノナリ

○勸誘トハ淫行ノ意思ヲ有セサル者ニ對シ其意思ヲ生セシムル行為ヲ謂フモノニシテ其手段カ詐欺的ナルト否ラサルトテ區別セサルナリ

○舊刑法第三百五十二條ニ該當ス

第八十三條

有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

○有夫ノ婦トハ人ノ妻ヲ云フ

○妻トハ婚姻中ニ於ケル女ヲ云フ

○婚姻ハ民法第七百七十五條ニヨリ戶籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生スルモノナリ

故ニ事實上多年同居シ又ハ親籍故舊近隣ニ於テモ夫婦關係ノ如ク認メタリト雖モ未タ婚姻ノ届出ヲナサ、ルモノハ俗ニ所謂内縁ノ妻ニシテ法律上ハ人ノ妻ニアラス如斯内縁ノ妻ニハ姦通罪ハ成立セサルナリ

○ 縱容トハ看過スルヲ謂フ

○ 黙示ノ承諾ナルヲ以テ先ニ黙示ノ承諾ヲ付與シタル場合ノ如キハ夫ハ有效ナル告訴ヲ爲スヲ能ハサルナリ

○ 看過ニハ一般ノ看過特別ノ看過アリ

○ 妻カ淫賣ヲナスコトヲ看過シタルキハ一般ノ看過ナルヲ以テ其何人ト姦通スル場合ト雖モ有效ナル告訴ヲ爲スコトヲ得サルナリ

○ 之ニ反シテ妻カ特定人ノ妾ト爲ルコトヲ看過シタルキハ特別ノ看過ナルヲ以テ其特定人以外ノ男子ト姦通シタルキハ本夫ハ尙ホ有效ナル告訴ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

○ 舊刑法第五百三十三條ニ該當ス

第百八十四條 配偶者アル者重子テ婚姻ヲ爲シタルトキハ

二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

○ 民法上有效ニ成立スル處ノ婚姻ヲ爲シタル男子又ハ女子カ更ニ民法上有效ニ存立スヘキ婚姻ヲ爲シタル行爲ヲ謂フ

○ 民法第七百七十五條婚姻ハ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生スルモノナリ

○ 舊刑法第三百五十四條ニ該當ス

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事

ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニアラス

○ 偶然ノ輸贏トハ偶然ノ勝負ナリ

○ 博戲賭事ニ就テノ學說

一 客觀說ハ所爲ノ方面ヨリ立論シ博戲ハ關係者ヨリ出ツル働作
又ハ關係者ノ依頼シタル第三者ヨリ出ツル働作ニ依テ勝敗決
セラレ

賭事ハ關係者ノ働作以外ノ出來事ニ依テ勝敗決セラル、ト云

第百八十七條

二 主觀說ニ意思ノ方面ヨリ立論シ博戲ハ偶然ノ出來事ニ因リ利
益ヲ獲ルヲ目的トシ賭事ハ自己ノ確信ヲ強ムル爲メ條件付ニ
利益ヲ與フルニ過キト云ヘリ

○關係者ノ確知セサル事實ニ因リ勝敗ヲ決シ利益ヲ得喪スルヲ
兩者ノ通性トス

○舊刑法第二百六十一條ニ該當ス

第百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三

年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ
三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○常習トハ數度繰返シテ爲スモノヲ云フ

○舊刑法第二百六十一條第二百六十條ニ當該ス

第百八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ

三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二
千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又
ハ科料ニ處ス

○富籤トハ興行者カ一定ノ計畫ニ從ヒ夥多ノ籤ヲ製シ其中ニ富

籤ヲ設ケ之ヲ多數ノ人ニ販賣シ其賭金中ヨリ一定ノ手数料ヲ引去リ其殘餘ヲ當籤者ニ分配シ不當籤者ハ全ク賭金ヲ損スルカ如キ賭事ヲ謂フ其方法種々アリ

○舊刑法第二百六十二條ニ該當ス

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第八十八條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
說教禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○公然ナルヤ否ナハ事實問題ナリ

○舊刑法第二百六十三條ニ該當ス

第八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

○墳墓トハ死体遺骨遺髮ヲ埋葬セル場所ナリ

○舊刑法第二百六十五條第一項ニ該當ス

第九十條 死体遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

○埋葬以前ナリ

○舊刑法第二百六十四條ニ該當ス

第九十一條 第八十九條ノ罪ヲ犯シ死体遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○埋葬以後ナリ

○舊刑法第二百六十五條第二項ニ該當ス

第九十二條 検視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十

圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

○變死トハ普通人ノ死ニ反シタルモノナリ

○検視ハ當該官署ノ検視ナリ

○通常警察署之ヲナスモノナリ

○舊刑法第四百二十六條ニ該當ス

第二十五章 瀆職ノ罪

第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事

ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月

以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

○法令ハ官職又ハ公職ヲ執行スル者ニ其ノ職務ノ範圍ヲ示セシ
之ヲ職權ト云フ

即チ其地位ヲ濫用スルコトナリ

○舊刑法第二百七十六條ニ該當ス

第九十四條 裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助ス

ル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六

月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

○逮捕ト云フキハ有形ノ自由即チ運動往復ノ意思ヲ實行スヘキ

能力ノ剝奪ト云フニ同シ直接ニ身体ノ上ニ物質ヲ加ヘテ實行

スルヲ常トス

○監禁トハ一種ノ有形的自由ノ剝奪ナリ一定ノ區画ノ外ニ出ツ

ル自由ヲ剝奪スルモノニシテ行通遮斷ナリ

○職權濫用ハ前條參照スヘシ

○舊刑法第二百七十八條ニ該當ス

第九十五條

裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ幫助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

○拷問ヲ爲ス罪ナリ

○暴行トハ不法ノ腕力ナリ

○陵虐トハ苛刻ノ所爲ナリ

○舊刑法第二百八十二條第一項及ヒ第二百八十條ニ該當ス

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

○舊刑法第二百八十條第二項第二百八十二條第二項ニ該當ス

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

○公務員ハ第七條ニアリ

○ 仲裁人トハ紛争ノ調停ヲ委託セラレタルモノナリ

○ 賄賂ノ物体トナルヘキ利益ニ付テノ學說

一 單ニ財産上ノ利益ニ限ルナリト

二 何等ノ區別制限ヲ認メサルナリト

三 物品タルト行爲タルトヲ分タス金錢ニ見積ルコトヲ得ルト否ト

ヲ分タスト雖モ少クトモ有形的ノ利益タルヲ要シ單ニ公務員

ニ無形ノ満足ヲ與フルニ過キササルモノハ之ヲ含マストスル說

多數ナリ

○ 不正ノ行爲トハ違法ノ行爲ナリ

○ 舊刑法第二百八十四條第二百八十五條第二百八十六條及ヒ第

二百八十八條ニ該當ス

第二百九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付提供又ハ約

束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ參百圓以下ノ罰金ニ
處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又
ハ免除ズルコトヲ得

○ 前條參照スヘシ

第二十六章 殺人ノ罪

第二百九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年

以上ノ懲役ニ處ス

○ 物体ハ生命アル自己以外ノ人類ニ限ラレ生前ノ胎兒死後ノ遺
骸ヲ含マサルハ論ヲ俟タサルナリ

○ 故意ヲ以テ他人ノ生命ヲ絶ツノ行爲ナリ

○ 謀殺毒殺故殺誤殺ヲ含ムモノナリ

○ 舊刑法第二百九十二條第二百九十三條第二百九十四條第二百

九十五條第二百九十六條第二百九十七條ニ該當ス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑
又ハ無期懲役ニ處ス

○身分ニ依リ重罰スル犯罪ナリ

○舊刑法第三百六十二條第一項ニ該當ス

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

○目的ナル遠因ヲ要スル犯罪ナリ

○一般ノ犯罪ノ豫備行爲ハ罰セサルナリ豫備ヲ罰スルハ遠因ヲ有スル場合ナリ例ヘハ法文ニ何々ノ爲メ又ハ何々ノ目的ナル字句ヲ以テ示セリ

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被害

者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

○自殺トハ自己カ其生命ヲ絶ツ行爲ヲ謂フ

○自殺トハ犯罪ニアラス故ニ本條ニ殺唆又ハ幫助ナル共犯ニ用ユル文字アリト雖モ共犯ニアラサル別種獨立ノ罪タルヲ注意スヘシ

○囑託ハ自殺者ヨリ發意シタルヲ要ス

○承諾ハ殺意アル者ノ發意アルヲ要スルモノナリ

○身体生命ハ承諾ニ依リ拋棄シ能ハサル法物ナリ

○舊刑法第三百二十條及ヒ第三百二十一條ニ該當ス

第二百三條 第九十九條第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之

ヲ罰ス

第二十七章 傷害ノ罪

第二百四條 人ノ身体ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

○ 物体ハ生命アル自己以外ノ人類ニ限ラレ生前ノ胎兒死後ノ遺骸ヲ合マサルハ論ヲ俟タサルナリ

○ 傷害トハ身体又ハ健康ノ現状ヲ侵害スルヲ云フ

○ 傷害ヲ生シ得ヘキ行動ハ通常毆打ナリ

○ 舊刑法第三百一條及ヒ第三百條第三百二條第三百三條第三百七條第三百十條ニ該當ス

第二百五條 身体傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

○ 結果罪ナリ

○ 殺人罪ト本罪トノ差別ニ就テ二説アリ

一、謀故殺ニ在リテハ犯人特定ノ結果即チ被害者ノ死亡ヲ確認シタル事實即チ確定ノ故意ナカル可ラス若シ其豫見不確定ナルカ又ハ全ク之ヲ豫見セサルカ若クハ之ヲ豫見シタル確証ナクシテ傷害ノ結果被害者死ミタルキハ傷害致死ノ罪ナリト

二 不確定ノ故意モ亦タ故意ナリ犯人若シモ被害者ノ死亡ヲ豫期シタランカ縱シヤ其豫期不確定ナリシ場合ト雖モ謀故殺ノ部類ナリ故ニ傷害致死ノ罪ハ確定ニモ不確定ニモ被害者ノ死亡ヲ豫見セサリシ場合ナラサルヘカラスト

○第二説ヲ正トスルトキハ傷害致死ノ罪ハ故意ヲ以テ人ヲ傷害シ殺意ナクシテ被害者死亡シタル片成立スト云フヲ得ヘシ

○舊刑法第二百九十九條第三百二條第三百八條第三百六十六條第三百九條第三百十一條第三百十二條ニ該當ス

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五拾圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

○助勢トハ幫助ノ一部ナリ

○舊刑法第三百六條ニ該當ス

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト

雖モ共犯ノ例ニ依ル

○暴行トハ不法ノ腕力ナリ

○共同者ニ非ストハ二人以上ニ意思共通ナキ者ヲ云フ

○舊刑法第三百五條ニ該當ス

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者ハヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五拾圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

○公益ヲ害スルヨリ被害者ノ名譽ヲ害スルコト重大ナルヲ以テ被害者ノ意思ニ放任セルモノナリ

第二十八章 過失傷害ノ罪

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ

罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

○過失トハ認識スルヲ要シ且ツ認識スルヲ得ル事實ヲ認識
セサルヲ謂フ

不注意ヲ以テ骨子トナス

○傷害トハ身体又ハ健康ノ現状ヲ侵害スルヲ云フ

○公益ヲ害ヨリ個人ノ名譽ヲ害スルヲ大ナルヲ以テ個人ノ意思
ニ放任セルモノナリ

○舊刑法第三百十八條第三百十九條ニ該當ス

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ

罰金ニ處ス

○過失ハ前條參照

○舊刑法第三百十七條ニ該當ス

第二百十一條 業務上必要ノ注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致
シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
○業務上當然ナスヘキ注意ナリ

第二十九章 墮胎ノ罪

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ユ又ハ其他ノ方法ヲ以
テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

○懷胎トハ受胎後分娩前ヲ云フ

○墮胎トハ人爲的ニ胚胎ヲ排出セシムル爲ヲ謂フ

○或ハ墮胎トハ人爲的ニ胚胎ヲ排出セシムルニ依リ其生存ヲ失
ハシムル行爲ナリト云ヒ

○或ハ胚胎ヲ人爲的ニ排出セシメタリト雖モ排出セラレタル胚

胎カ生存スルキハ之ヲ墮胎ト云ハストチスモノアリ

○ 胚胎トハ受胎後分娩前ニ於テ子宮内ニ在ル物ヲ謂フ

○ 胚胎保護ノ根據ニ就テハ三説アリ

一、胚胎ヲ保護スルハ懐胎シタル婦女ヲ傷害スヘカラサルコトニ根據スト云フ者アリ

二、胚胎ヲ保護スルハ一般ノ國家團體ノ利益ヲ擁護スル必要ニ根據スト云フ者アリ

三、胚胎ヲ保護スルハ胚胎カ將來自然人タル運命ヲ有スル物ナル点ニ根據スルモノナリト(通説)

○ 懐胎ノ婦女自身ノ行爲ナリ

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致

シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○ 墮胎セントスル意思アル婦女ナルヲ要ス

○ 懐胎ノ婦女ハ必要的ノ共犯ナルヲ以テ本罪ノ共犯トシテ之ヲ罰セシテ單純ノ墮胎罪ナリ

○ 舊刑法第三百三十一條ニ該當ス

第二百十四條 醫師産婆藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

○ 情狀ノ重キ罪ナリ

○ 舊刑法第三百三十二條ニ該當ス

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ承諾ヲ得スシテ墮

胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○ 容体ハ胚胎及ヒ懷胎ノ婦女ナリ

○ 暴行脅迫其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル場合ナリ

○ 未遂モ罪トナル

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル

者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

○ 舊刑法第三百三十五條ニ該當ス

第三十章 遺棄ノ罪

第二百十七條 老幼不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者

ヲ遺棄シルル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

○ 遺棄ナル語ノ法律上ノ觀念

○ 或一人カ他人ヲ保護スル義務ヲ免カル、目的ヲ以テ之ト隔離
スルコトナルヘシ

○ 自活能力ナキ者ナリ即チ自己ノ生命身体又ハ健康ニ對スル危
害ヲ防衛スルノ能力ナキモノナリ

○ 舊刑法第三百三十六條及ヒ第三百三十七條ニ該當ス

第二百十八條 老者幼者不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任

アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササ
ルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六
月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

○ 保護義務者トハ法律上ノ義務アル者例ヘハ民法第九百五十四
條ノ扶養ノ義務又ハ契約上ノ義務アル者例ヘハ看護義務其他

契約上ノ扶養ノ義務ノ如シ

○舊刑法第三百三十八條第三百六十三條ニ該當ス

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル

者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

○遺棄ヨリ生シタル結果ニ對シテモ犯意ヲ要スルヤ

○「フランシ」「マイエル」「ピンチング」等ハ遺棄ノ犯意ハ危害的犯

意ナルカ故ニ傷害的犯意ヲ包含セスト云ヒ

○「リスト」「ナルスハウゼン」等ハ遺棄ノ犯意中ニハ當然偶發的傷

害ノ犯意ヲ包含スト云フ

○遺棄ハ性質上生命又ハ健康ヲ害スヘキ虞レンアル行爲ニ關スル

ヲ以テ時ニ或ハ遺棄シタル結果死傷ヲ受クルコト多シ

○本條ハ傷害ノ意思ノ有無ヲ問ハサルモノト信ス

○舊刑法第三百三十九條ニ該當ス

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以

上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六

月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

○逮捕トハ有形ノ自由即チ運動往復ノ意思ヲ實行スヘキ能力ノ

剝奪ト云フニ同シ直接ニ身体ノ上ニ物質力ヲ加ヘテ實行スル

ヲ常トス

○監禁モ一種ノ有形的自由ノ剝奪ナリ逮捕ト異ナルハ一定ノ區

畫ノ外ニ出ツル自由ヲ剝奪スルモノニシテ行通遮斷ナリ方法

ノ如何ヲ問ハサルナリ

○不法トハ違法ナリ

○舊刑法第三百二十二條第三百二十三條及ヒ第三百六十三條ニ該當ス

第二百二十一條

前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

○舊刑法第三百二十四條ニ該當ス

第三十二章 脅迫ノ罪

第二百二十二條

生命身体自由名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命自由名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

○脅迫トハ人ヲシテ畏怖心ヲ胞カシムヘキ害惡ノ通知ヲ謂フ

○本罪ハ害惡ヲ制限セリ

○名譽トハ他人間ニ於テ敬重セラレ、事實ヲ謂フ

○親族ノ範圍ハ民法第七百二十五條ノ六親等内ノ血族配偶者三親等内ノ姻族ヲ云フ

○舊刑法第三百二十六條第三百二十七條第三百二十八條及ヒ第三百六十三條ニ該當ス

第二百二十三條

生命身体自由名譽若シハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
親族ノ生命身体自由名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キ

コトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○ 暴行又ハ脅迫ヲ以テ爲シタル場合ナリ

○ 前條參照

○ 暴行ハ不法ノ腕力ナリ

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

○ 略取トハ暴行又ハ脅迫ニ依リ強制的ニ場所ヲ遷移セシムル行爲ヲ謂ヒ
爲ヲ謂ヒ

○ 誘拐トハ欺罔ニ依リ任意ニ場所ヲ遷移セシムル行爲ヲ謂フ

○ 舊刑法第三百四十一條及ヒ第三百四十二條ニ該當ス

第二百二十五條 營利猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○ 目的ナル遠因ヲ要スル罪犯ナリ

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

○ 目的ナル遠因ヲ要スル犯罪ナリ

○ 舊刑法第三百四十五條ニ該當ス

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隠

避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受
シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

○目的ナル遠因ヲ要スル犯罪ナリ

○藏匿トハ秘密ニ其勢力内ニ留マラシムル行為ニシテ其勢力内
タル以上ハ自己ノ居宅ニ居留セシムルト又ハ他人ノ居宅其他
ニ居留セシムルトヲ區別セス

○隠避トハ退去スル行為ヲ云フ人ヲ一定ノ地ニ逃走セシムルカ
如シ

○舊刑法第三百四十三條ニ該當ス

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪同條ノ罪ヲ幫助スル

目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此
等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テ
サル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被
賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消
ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

○親告罪ナリ

第三十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者

ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又
ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ
之ヲ罰セス

○公然ナルヤ否ヤハ事實問題ニシテ事實審判官ノ判斷ニ任スルモノナリ

○名譽ノ意味ニ二個ノ見解アリ

一、名譽トハ自尊ノ事實ヲ謂フ

此見解ニ依レハ名譽ニ對スル罪ハ直接被害者ノ心理ニ於テ痛苦ヲ感セシムル行為タルヘシ

二名譽トハ他人間ニ於テ敬重セラル、事實ヲ謂フ

此見解ハ寧ロ近時ニ於ケル通説ニシテ

「リスト」ハ社會ノ團體員間ニ於ケル人的價值ナリト云ヒ

「オルスハウゼン」ハ人類社會ニ於テ有スル價格ナリト云ヒ

「マイエル」ハ他人間ニ於ケル外觀ニシテ輕侮ノ語句ニ依リ害セラレサル事實上ノ狀況ナリト云ヒ

「フランク」ハ社會上ノ地位ナリト云フ

○舊刑法第三百五十八條第三百五十九條第三百六十三條ニ該當ス

第二百三十一條

事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

○公然ナルヤ否ヤハ事實問題ナリ

○侮辱トハ名譽ニ對スル傷害行為ニシテ積極的ニ威嚴ヲ汚損スル行為ナリ

○官吏侮辱ヲ廢止シタル結果官吏ヲ侮辱スルモノハ本條ノ犯罪トナル

○名譽休面ノ重スヘキハ人情ナリ官吏ノミ敢テ重シトスルノ理由ナシ

○舊刑法第四百二十六條ニ該當ス

第二百三十二條

本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

○國家ノ利益ヲ害スルヨリ直接ニ被害者ノ利益ヲ害スルコト大ナルヲ以テナリ

○舊刑法第三百六十一條ニ該當ス

第三十五章

信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條

虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○信用トハ或人カ必ス其ノ諸般ノ義務ヲ尽シ特ニ其ノ貸借上ノ義務ヲ尽スナラムト他人ヨリ推測サル、信任ヲ云フ

○信任ノ條件

一、信用ヲ得ル人自身カ其ノ義務ヲ尽クスノ能力ヲ有スルコト

二、信用ヲ得ル人自身カ其ノ義務ヲ尽クスノ意思アルコト

三、信用ヲ得ル人若シ自ラ任意ニ其ノ義務ヲ尽サ、ルキハ彼ヲシ

テ之ヲ尽サシメ場合ニ依リ止ムコトヲ得サレハ司法行政ノ兩權

ヲ借リテ之ヲ強制スルヲ得ルコト

○業務トハ一般ノ業務ニシテ別ニ制限ナシ

第二百三十四條

威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前

條ノ例ニ同シ

○前條ト本條ハ舊刑法第二百六十七條乃至第二百七十二條ニ該當ス

第三十六章

窃盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五條

他人ノ財物ヲ窃取シタル者ハ窃盜ノ罪ト

爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

○ 窃取トハ物ノ他人ノ所持ヲ離シ自己ノ所持ニ移スヲ謂フ

○ 故ニ單ニ目的物ニ手ヲ觸レタルノミヲ以テ足レリトセス亦犯所ヨリ持去リタルコト又ハ全ク安全ナル個處ニ移シタルコトヲ必要トセス要ハ止タ他人ノ所持ヲ離シタルノミナラス已レノ所持ニ移シタルヲ要スト云フニアリ

○ 窃取ハ物ノ所有者又ハ所持者之ヲ持去ルヲ認許シタルキハ固ヨリ窃盜罪ナシ窃取ハ自儘ノ意ヲ含ム而レモ暴行脅迫欺罔恐喝等特ニ法律ニ示稱シタル方法ヲ用ヒザル總テノ場合ニ該當シ被害者又ハ其他ノ者ノ知ラサル間タルヲ必要トセス

○ 窃取ハ他人ノ所持ヨリ已レノ所持ニ移スヲ要素トシタル結果其ノ物体ハ有体物ナラサルヘカラス

○ 刑ノ範圍ヲ擴張シ裁判官ヲシテ自由裁量セシムルモノナリ

○ 舊刑法第三百六十六條第三百六十七條第三百六十八條第三百六十九條第三百七十條第三百七十二條第三百七十三條第三百七十四條ニ該當ス

第二百三十六條

暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シ

タル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス
前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○ 強盜トハ暴行脅迫ヲ以テ他人ノ所持スル物ヲ自己ノ所持ニ移スヲ謂フ

○ 暴行トハ不法ノ腕力ナリ

○ 脅迫トハ人ヲシテ畏怖セシムヘキ害惡ノ通知ナリト雖モ強盜

ノ手段タル脅迫ハ精神ヲ抑制スヘキ現在ノ危害ナラサルヘカ
ラス

○舊刑法第三百七十八條第三百七十九條ニ該當ス

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ
二年以下ノ懲役ニ處ス

○遠因ヲ有スル豫備行爲ナリ

第二百三十八條 窃盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ
免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタ
ルトキハ強盜ヲ以テ論ス

○前二條參照

○舊刑法第三百八十二條ニ該當ス

第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者

ハ強盜ヲ以テ論ス

○藥酒等ヲ用ヒタル場合ナリ

○舊刑法第三百八十三條ニ該當ス

第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上
ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ
處ス

○殺傷ハ之ヲ奪財ノ手段トシタルトキハ勿論其手段ト爲サル
キト雖モ強盜ノ場合ニ於テ併發シタルモノナルハ強盜殺傷
ノ罪トナルヘシ

○殺傷ヲ奪財ノ手段トナサ、ルトキハ別ニ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘ
強盜タル資格アルコトヲ要ス

○現場ノ殺傷トハ實行中及ヒ實行ノ着手中ノ殺傷ヲ謂フハ勿論

實行終結後ト雖モ財物ノ取還ヲ拒ム爲メ又ハ其場ノ逃走ヲ容
易ニスル爲メノ臨時ノ殺傷ヲモ含ムヘシ

○舊刑法第三百八十條ニ該當ス

第二百四十一條

強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七
年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死
刑又ハ無期懲役ニ處ス

○強盜タル資格アルコトヲ要ス

○前條參照スヘシ

○舊刑法第三百八十一條ニ該當ス

第二百四十二條

自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ
公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本
章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

○自己ノ財物ニ對シテモ竊盜強盜罪成立スル場合アリ本條ノ如シ

○看做トハ反証ヲ許サス法律上認定シタルモノナリ

○舊刑法第三百七十一條ニ該當ス

第二百四十三條

第二百三十五條第二百三十六條第二百三
十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○舊刑法第三百七十五條ニ該當ス

第二百四十四條

直系血族配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族
ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタ
ル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ
告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ユ

○親族相盜ニハ刑罰ヲ科セサルモノト申告罪トノ二種アリ

○舊刑法第三百七十七條ニ該當ス

第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

○電氣ハ力ニシテ物ニアラサルコトハ理學者間ニ爭ナキ点ニ屬スルモノナリ

○竊盜強盜罪及ヒ詐欺恐喝罪ノ場合ニハ財物ト看做セリ

○看做トハ法律上認定シタルモノナリ

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年

以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○欺罔トハ他人ヲシテ人物又ハ事實ヲ錯誤セシメタル行爲ヲ謂フ

○錯誤トハ事物ノ眞實ニ反スル觀念ナリ

○眞實ニ反スル觀念トハ全部又ハ一部カ眞實ト差異アル觀念ヲ謂フナリ

○錯誤ト不知トハ之ヲ區別スルコトヲ要ス

○騙取トハ錯誤ノ結果トシテ他人ノ交付スルコトヲ同意シテ收受スルヲ謂フ

○舊刑法第三百九十條ニ該當ス

第二百四十七條 他人ノ爲メ事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ

加へタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ
處ス

○委任事務ヲ處理スル如キ又ハ事務管理ヲナス如キ等は是レナリ

第二百四十八條

未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ
乘シテ其財産ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得
若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲
役ニ處ス

○完全ナル能力ヲ有セサル者ノ行爲ナリ

○交付トハ占有ヲ移轉スルヲ云フ

○舊刑法第三百九十一條ニ該當ス

第二百四十九條

人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ
十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシ
テ之ヲ得セシメタル者同亦シ

○恐喝トハ現在ノ害惡以外ノ到來スヘキ旨ノ通知ニ依リ他人ヲ
異怖セシメタル行爲ヲ謂フ

○交付トハ畏怖ノ結果引渡ヲナス即チ占有ヲ移轉スルヲ云フ

○舊刑法第三百九十條ニ該當ス

第二百五十條

本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○舊刑法第三百九十七條ニ該當ス

第二百五十一條

本章ノ罪ニハ第二百四十二條第二百四十
四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

○舊刑法第三百九十八條ニ該當ス

第三十八章 横領ノ罪

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

○占有トハ自己ノ爲ニスルノ意思ヲ以テ物ヲ所持スル事實ナリ横領トハ不法ニ有体物ニ付キ所有權ニ類似スル支配ヲ爲ス行爲ヲ謂フ

物トハ動産不動産ヲ併稱ス

○舊刑法第三百九十五條ニ該當ス

第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○業務上自己ノ占有スルハ公務員ノ如キハ著シキモノナリ

○舊刑法第二百八十九條ニ該當ス

第二百五十四條 遺失物漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

○遺失物トハ權利ヲ拋棄スル意思ナキ者ノ所持ヲ離レ而シテ發見者ニ於テ其所持者ヲ知ルヲ能ハサルモノヲ云フ

○漂流物トハ水上ニ在ルカ又ハ流水波浪ノ爲メ水邊ノ陸地ニ達シタル遺失物ナリ

○埋藏物トハ偶然發見シタル土中ノ藏匿物又ハ貯藏物ニシテ所有者ノ分明ナラサル物ヲ謂フ

○横領トハ不法ニ所有權類似ノ支配行爲ヲナスヲ云フ

○舊刑法第三百八十五條及ヒ第三百八十六條ニ該當ス

第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

○舊刑法第三百九十八條及ヒ第三百九十七條ニ該當ス

第三十九章 贓物ニ關スル罪

第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬寄藏故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○贓物トハ犯罪ニ因テ占有ヲ取得(竊取強取騙取交付)又ハ保持(遺失物漂流物理藏物)シタル有体物ヲ謂フ

○牙保トハ贓物ノ所持者ト通謀シ第三者ニ贓物ノ引渡ヲ爲シ又ハ其引渡ノ媒介ヲ爲スヲ謂フ

○舊刑法第三百九十九條及ヒ第四百一條ニ該當ス

第二百五十七條 直系血族配偶者同居ノ親族又ハ家族及ヒ

此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者

ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

○公務所ノ何タルヤハ第七條第二項ニアリ

○文書トハ文字又ハ符號ヲ以テ或ル物品ノ上ニ附着セシメタル思想ノ説明ナリ

○毀棄トハ文書ノ一部又ハ全部ヲ損壞スル行爲ヲ謂フ即チ其形

体ヲ變更スルノニ關スルナリ

○舊刑法第二百二條二項第二百三條二項第二百五條二項ニ該當ス

第二百五十九條 權利義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

○前條參照スヘシ

○舊刑法第四百二十四條ニ該當ス

第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

○建造物トハ人ノ住宅ハ勿論學校官廳神社佛閣又ハ人ノ住居セサル邸宅其他ヲ云フ

○舊刑法第四百十七條ニ該當ス

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

○舊刑法第四百十八條乃至第四百二十三條ニ該當ス

第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ク物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

○自己ノ物ニ對シテ罪トナル場合ヲ示セリ

第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五拾圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

○ 信書トハ或一定ノ人カ或一定ノ人ニ對シテ其意思ヲ通スルカ
爲メニ送達スル處ノ書狀ヲ謂フ

信書トハ一般ノ信書ヲ包含スルモノニシテ封シタル信書ハ勿
論郵便葉書電信等ノ如キヲ云フモノナリ

○ 隱匿トハ自己ノ勢力内ニ留マラシムルモノナリ

第二百六十四條 第二百五十九條第二百六十一條及ヒ前條

ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

○ 益ノ害ヨリ個人ノ利益ヲ害スルコト大ナルヲ以テ申告罪トセ
ルナリ

明治四十年七月一日印刷
明治四十年七月五日發行

原籍 沖繩縣那霸區二千二百二十四番地土族
現住 靜岡縣駿東郡沼津町本六百七十九番地

編輯兼發行人 糸 數 昌 興

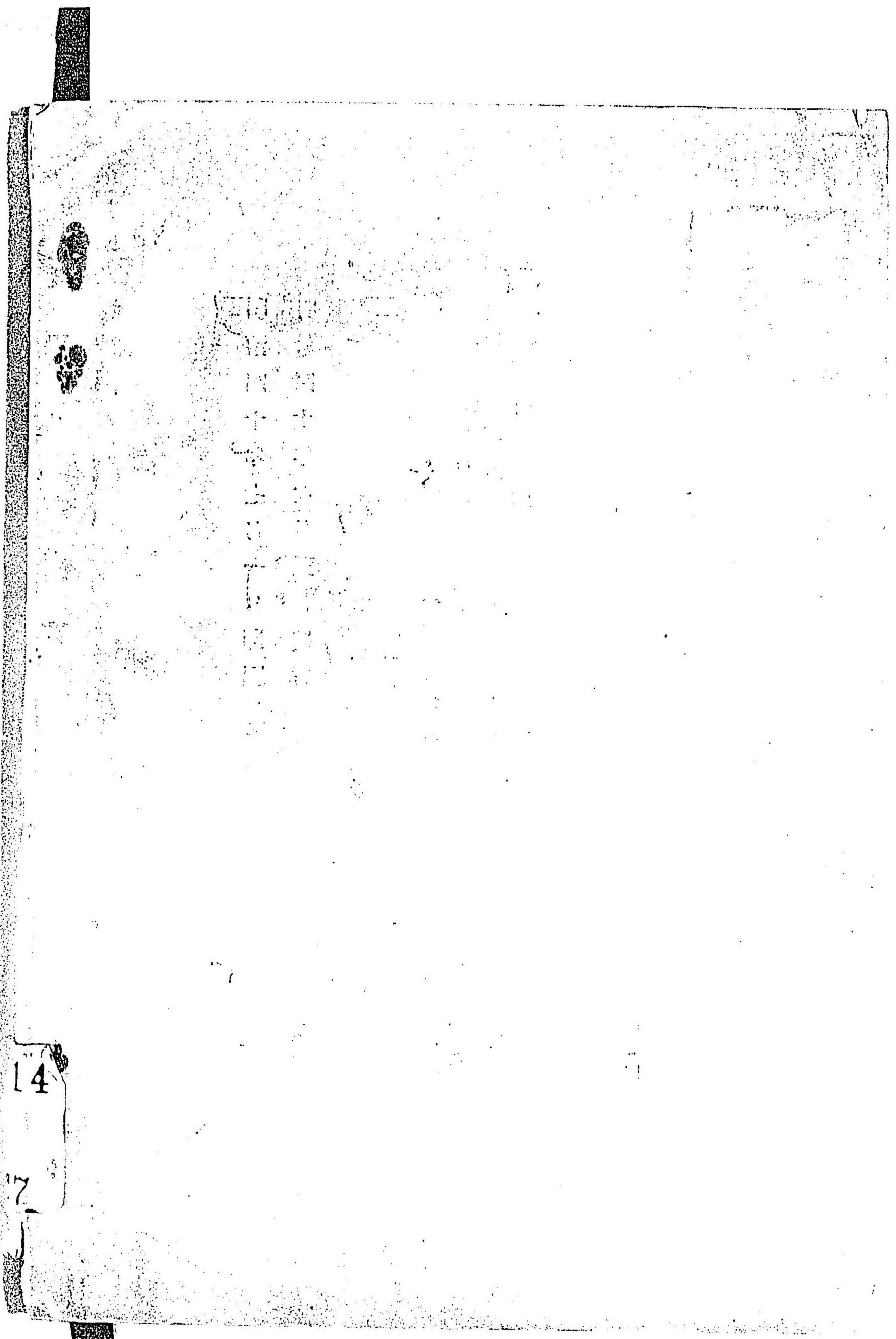
靜岡縣田方郡三島町八十九番地

印刷人 荻野正三郎

全

印刷所 ⊕ 三島活版所





14

17